

# 第9次日中知事省長交流概要報告

日程 平成26年(2014年)10月27日(月)～10月31日(金)

全 国 知 事 会



第9次日中知事省長交流事業概要報告  
平成27年(2014年)10月27日(月)～10月31日(金)

I	第9次全国知事会訪中代表名簿	1
II	滞在日程	2
III	要人表敬訪問	3
	1. 唐家璇中国日本友好協会会長との懇談	
	2. 李源潮国家副主席	
IV	第2回日中知事省長フォーラム	10
	1. プレゼンテーション	
	2. 意見交換	
	3. レセプション	
V	地方視察	56

# I 第9次全国知事会訪中代表团名簿

団 長	全国知事会会長・京都府知事	山田 啓二
団 員	新潟県知事	泉田 裕彦
団 員	鳥取県知事	平井 伸治
団 員	長野県知事	阿部 守一
団 員	滋賀県知事	三日月 大造
団 員	山口県知事	村岡 嗣政
団 員	広島県副知事	中下 善昭
随 員	京都府政策企画部副部長	森川 世紀
	京都府秘書課副課長	森本 智子
	新潟県国際課中国室長・課長補佐	桑原 正広
	新潟県知事政策局秘書課課長補佐	平松 勝久
	鳥取県交流推進課課長	門脇 誠司
	鳥取県交流推進課係長	横地 義照
	鳥取県交流推進課国際交流員	胡 敏
	長野県国際課参与	西田 節夫
	長野県国際課課長	白鳥 博昭
	長野県総務部秘書課課長	大月 良則
	滋賀県企画調整課広域連携推進室室長	中嶋 実
	滋賀県秘書課主査	清水 潤
	山口県総合企画部次長	西生 公一
	山口県総務部秘書課主査	村田 真一
	広島県地方分権推進課参事	江原 透
事務局	全国知事会事務総長	橋本 光男
	全国知事会総務部副部長	高松 健一
	全国知事会総務部参事	松橋 弘子
	全国知事会総務部副参事	大矢 豪稔

## Ⅱ 滞在日程

日時	移動手段	時刻	場所	日程
10月26日 (日)	NH955 成田発	17:25	北京空港	○新潟県知事北京着
10月27日 (月)	NH159 関空発	10:00		○訪中代表団北京到着（京都府知事、鳥取県知事、山口県知事、広島県副知事、全国知事会事務局）
		13:40	日本大使館	○木寺中国大使との懇談 （会長、新潟県知事、鳥取県知事、山口県知事、広島県副知事、事務総長）
		18:00	セントレジス 北京ホテル	○唐家璇中日友好協会会長との懇談 （会長、新潟県知事、鳥取県知事、山口県知事、広島県副知事、事務総長）
	NH5707 成田発	19:00	北京空港	○長野県知事北京着
	EY889 中部発	21:20	北京空港	○滋賀県知事北京着
10月28日 (火)		10:00	人民大会堂	○李源潮国家副主席表敬訪問
		11:30	中国人民対外 友好協会	○李小林中国人民対外友好協会会長主催招宴
		14:00	釣魚台第6号館	○第2回日中知事省長フォーラム
		18:30	釣魚台第5号館	○歓迎レセプション※随行も含め全員参加
		21:00 21:30	貴賓楼飯店	○訪中代表団記者会見（日本側マスコミ） ○山田会長人民網インタビュー
10月29日 (水)	CA1405 北京発	8:00 13:00 17:30	錦江賓館	○帰国（新潟県、鳥取県、長野県、滋賀県） ○視察（会長、山口県、広島県、事務局） ○成都市内視察 ○魏宏省長との懇談
10月30日 (木)		9:00	都江堰市	○四川大地震復興状況視察 ・都江堰市におけるペアリング支援状況 ・水利施設「都江堰」復旧状況視察 ○視察後上海へ移動
10月31日 (金)			上海浦東空港	○午前帰国（会長、事務局） ○午後帰国（山口県、広島県）

### Ⅲ 要人表敬訪問

#### 1. 唐家璇中国日本友好協会会長

【日 時】平成26年10月27日(月) 18:30～

【場 所】ホテルレジス北京

【参加者】(全国知事会)

山田啓二会長(京都府知事)、泉田裕彦新潟県知事、平井伸治鳥取県知事

村岡嗣政山口県知事、中下善昭広島県副知事、橋本光男事務総長他

(中国日本友好協会)

唐家璇会長、王秀雲副会長他

#### ○唐家璇中日友好協会会長

まず、中日友好協会を代表し、また、このたびのフォーラムの各関係の主催者側を代表しまして、皆様のご来航に、心より熱烈な歓迎の意を申し上げます。ようこそいらっしゃいました。

このたび、山田全国知事会会長を初めとする各知事の皆様、中国に来られました、特に山田知事ご自身も京都府の知事でいらっしゃいますし、中国とも私とも非常に深い関係をお持ちしていらっしゃる知事、皆様、こういうふうにも中国を訪問されましたことは、私から見れば、まさに中日関係の一大のイベントであると思います。

特に、今年という年は非常に重大なことであると思います。

本日、こういうふうにご一緒し、古き友人の皆様とお会いでき、また新しい友人の皆様とお会いすることができて、非常に親しみを覚えております。

当面、中日関係は、ご存じのように、まだうまく順調にいかず、少なからぬ困難に直面している中、知事の皆様はやはり計画どおりに中国に来られ、このたびのフォーラムに出席されたことは、まさに皆様の中国に対する重視、また日中関係に対する重視、それから絶えず中日両国の友好協力を推進していく、その努力と熱意をあらわしていると思います。

今回のフォーラムは、2年半ぶりに再び開かれることになりました。日本側からは、今回は1府6県の代表、主な責任者、日本式で言いますと、日本各地の地方自治体の首長が来られます。同じく、中国側も今回7名の方が出席いたします。7名の中に6省1市がありまして、3名の省長、そのほか副省長、また天津市からは副市長が出席します。

中国の中央政府、また各地方、各地の地方政府は皆今回のフォーラムに対して非常に重要視しております。明日、午前、中国の李源潮副主席が皆様と会見することになっています。また、明日、午後は本格的にフォーラムが始まります。

本日は、皆様、こういうふうにご遠路はるばるお越しくださいまして、私はまず中国側を代表しま

して宴を設けて、いわゆる皆様の旅の労をねぎらいたいと思います。また同時に、この場を介しまして、やはり皆様と中日関係について、また今後の両国の地方交流と協力についてお話をし、意見交換させていただきたいと思います。

中日関係に関しては、私から多くを申し上げる必要は恐らくないと思いますが、中日両国は近い隣国でありますし、また、お互いの関係は緊密であり、利益にも深く寄与しております。中日関係のよしあしは、両国民の着実な利益と直接かかわるだけではなく、関係の各省や各府県の長期的な発展とも深くかかわっています。ご在席の知事の皆様は長く知事という仕事をなされてこられましたので、きっとそういう点に関しては身にしみる感じがあるのではないかと思います。

この2年余り以来、周知の原因で中日関係は国交正常化以来最も厳しい局面に陥りました。そのことに関しては、もちろん私からも多くしゃべる必要はないと思います。在席の知事の皆さんはわかっていると思います。

しかし、今の局面は、中日双方の各界の友好順守は目にしたものではありません。このような局面が長く続いてしまいますと、両国の根本的な利益に合致せず、さらにはまた、両国の国民の願い、それからアジア各隣国の国民たちの期待にも背くものであります。

したがって、このような局面を前にして、私たち双方、やはりともに努力して、何とかしてこの局面を転換させていかなければならないと思います。この件に関しては、私たち双方は高度に一致していると思います。

現在、確かに中日関係は依然として少なからぬ複雑な問題、また厳しい困難、チャレンジに直面していますが、しかし、ここで1点強調したいのは、中国政府としては、日本と友好協力関係を発展させていくという方針と政策は明確であり、一切変わったことはありません。

ここでは、先般、習近平国家主席が中国人民抗日戦争勝利69周年座談会で行ったスピーチの中の一部の言葉を引用したいと思います。習主席はこういうふう指摘しました。すなわち、中日両国の長期的平和と友好関係を保っていくことは、両国民の根本的な利益に合致するだけでなく、アジアと世界の平和と安定を維持していくそのニーズにも合致しています。中国政府として、また中国人民としては、今までどおり中日関係の発展に取り組んでいきます。また、中日両国の4つの政治文書、政治文書の基礎のもと、中日関係の長期的、健全かつ安定した発展を推進してまいります。以上の言葉は習近平国家主席のその座談会での一部のスピーチであります。

私から見れば、習近平国家主席のその言葉が中国政府の対日関係の方針と政策に関する誠意のある解釈であります。日本の各界の友人の皆様は、きっとその言葉に含まれているその中身、また、その深遠なる意義を正しく受けとめ、正しく理解することができると信じています。

中日関係の改善と発展を実現するためには、もちろん両国政府の正しい政策決定が必要であると同時に、両国各界の有識者、また両国の幅広い国民の積極的な参加と支持とを切り離すことはできないと思います。

中日間の問題は、歴史的、また多くは感情的もつれともかかわりますし、また複雑な、現実的な矛盾ともかかわっています。両国関係を改善させるためには、双方がやはり終始、長期と大局に着目し、両国の友好、平和、協力といった方法をしっかりと把握し、また同じ方向に向かって努力するということが必要であると思います。

一人の人間であれば、もし病気になりましたら、やはり先生に診てもらって、その病巣をつか

まえて正しく薬を与える必要があると思います。国と国の関係も同じように、今、不正常的な関係であり、問題が生じれば、やはり根本的な問題点をつかまえる必要があります。現在、両国関係がこのような不幸な局面になった、その原因は明らかであると思います。当面の急務というのは、まさに私が先ほど申し上げましたように、その根本的な問題点をつかまえて、正しい処方、正しい薬を与えることであると思います。すなわち、歴史と共同という現在最も突出した2つの問題を善処し、両国関係の正常な発展に影響を及ぼしている障害と隠れた危険を取り消すことであります。

ご在席の泉田知事は、よくご存じであると思いますが、中日両国の国交正常化交渉のプロジェクトの中には、既に亡くなりました中国側の周恩来総理、また日本側の田中角栄元首相、大平正芳先生など、両国の古き世代の政治家の皆様は、当時の両国関係に障害を与えている最も大きな障害、すなわち歴史問題を適切に処理することができました。中国側はいつも、日本の軍国主義の過去の侵略の歴史に正しく対応し、それを深く反省することが、中日関係を構築し、中日関係を発展させていく重要な基礎であると考えております。ぜひ日本の政府、日本の指導者が、国際社会が一般的に受け入れている立場に基づき、過去の歴史を正しく認識し、それに正しく対応し、掛け値なしに中日両国の4つの政治文書の各原則と精神を守り、また掛け値なしに村山談話、河野談話など重要な態度表明と約束を守り、靖国神社参拝などの見解の問題を善処するよう期待しております。

それから、領土の問題はかつてからの問題であります。中日双方その問題をめぐり立場と主張が違うというのは客観的な事実であります。中国側は一貫して対話と協議を通じて問題を平和裏に解決することを強調し、主張しています。日本側に対しても、ぜひ中国側とともに努力し、歴史と現実を直視する上で、中国側とともに情勢を効果的に管理し、コントロールし、また問題を解決するための方法を見つけ、それをもって両国関係が長期的に妨害を受けることは避けるよう努力していただきたいと思っております。

以上を申し上げましたのは、やはり両国関係に影響を及ぼしている根本的な問題点の解決ということであります。これから私から申し上げたいというのは、また心のしこり、心の問題も解決すべきであるということでもあります。中日関係の深層レベル、あるいは高いレベルの問題は、やはり両国の政治、安全保障面における相互信頼の欠如であると思っております。双方がやはり相手に対する正しい認識、正しい位置づけを確立し、相手は自分にとって、一体、協力のパートナーであるか、それともライバルであるか、さらには脅威であるかという根本的な問題をしっかりと考えなければならないと思っております。この根本的な問題がうまく解決できなければ、やはり両国関係の正常な発展に影響を及ぼしかねません。それは深層レベルの、深いレベルの問題、心のしこりです。

当面、中日両国とも深刻な発展と変化を経ています。現在、アジア隣国と国際社会は、皆、日本の今後の発展の趋向に関しては、高度に注目しております。戦後、日本は平和憲法の枠組みのもとで平和発展の道を歩んできました。また、その中で重要な発展の成果をおさめ、アジアの発展にとっても積極的な貢献をしてきました。この点に関しては、中国側は一貫して積極的な評価をしております。日本には、これからも引き続き今までの正しい道に沿って歩んでいくことを期待しております。

中国政府と中国人民は、今、二つの百年という奮闘目標の実現、またさらに中華民族の偉大な復興という中国の夢の実現のために取り組んでおります。その目的は、13億の中国人

民がよりよい生活を送れるように、また中国自身の発展を通じまして、地域、さらには世界の繁栄と発展に対してなすべき貢献をしていくことであります。

しかし、現在日本国内においては、一部の勢力がある種の政治目的を持って、いわゆる中国脅威論の宣伝に熱心であり、また人為的に緊張や対立をつくつたりしています。そのようなやり方は全く賢明ではなく、さらには極めて無責任なことであると思います。中国の発展のテンポ、発展の歩みを阻止することはできないばかりか、かえって、中国のかつて毛沢東主席がおっしゃった言葉のように、すなわち石を持ち上げて自分の足に落とすことになってしまい、かえって日本を誤った道に導いていってしまうことになります。日本各界の有識者は、ぜひ日本の今後の発展の道を真剣に考え、慎重に考えた上で、中国とともに互惠運用の協力、共同発展の道を歩んでいくことを期待しております。

最後に、私から、中日両国の地方交流と協力について、幾つかの所見を申し述べたいと思います。

私から見れば、両国の地方交流と協力は、中日関係の重要な構成部分であります。しかも既に高い、熱い協力の基礎がありました。この2年余りぐらい、両国関係は厳しい困難に直面している中でも、両国の地方交流と協力は完全にとまったことはありません。現在、このような厳しい雰囲気の中で引き続き両国の地方交流と協力を推進していくときは、恐らく一部の困難や抵抗、あるいは障害があるかもしれませんが、しかし、こういうときこそ双方がさらに信念を固め、長期的なものに着目し、困難に立ち向かって、たゆまぬ努力をしていく必要があると思います。

私が思うには、地方交流と協力を促進するときは、両国民の相互理解と友情を促進するだけでなく、やはり協力を重視し、互惠運用を重視し、各自の発展を促進していくことも、それにも重点を与える必要があると思います。そうすることこそ、安定的、長期的に事をやっていくことができると思います。

私が思うには、当面、このような幾つかの重点的な分野で双方が大いに力を入れることができると思います。

まず、1点目は、観光、旅行を拡大することです。中日両国とも自然や文化、また歴史に関する名所旧跡の数が非常に多く、観光の資源は大変豊富であります。最近、中国の日本に行く観光客の数は大幅に増加しています。これから、予測では中国はこれからの5年間、毎年恐らく海外旅行に出かける人々の数は1億人を超える可能性があります。それはもちろん日本の各地方にとってもメリットのある要素であると思います。もちろん同時に、我々としてもより多くの日本国民が中国旅行に来られることを歓迎します。

それから、2点目、大きな力を入れるべきところというのは、やはり交易、投資の分野であると思います。現在、中国の経済規模は確かに日本を超えまして、世界第2の経済となりましたが、しかし、中国の経済の発展のレベルといっても、質といっても、日本と比べたらやはり少なからず格差が存在しています。したがって、双方の間、その互換性は非常に強く、強力な潜在力は極めて大きなものがあります。互換関係ですね。

それから、中国各地、各省、市の発展もアンバランスであり、地方によってはまだ大きな投資と事業を立ち上げるその空間があります。それと同時に、中国でも少なからず有力な企業は日本での発展を期待しております。ですから、両国の地方政府は、これからはビジネス、貿易協力の環境の改善、また防災、救済の面、環境保護、省エネの面、それから汚染処理の面、そしてスマートシティの建設、それから中小企業のなどの分野でより大きな力を入れること

ができると思います。

先ほど申し上げました多くの分野は、中国がこれから外国との協力を非常に求めている分野でありますし、また日本は非常に先進的な技術、先進的な経験を持っている分野であります。総じてのことです。

それから、3点目は、教育分野のことです。青少年は中日関係の未来を背負っています。両国の地方友好姉妹都市の交流は、青少年の交流を展開する上での重要な、また効果的なネットであります。両国の各地方は、やはり自分各自の文化、教育の資源を十分に生かしながら、修学旅行や留学生の相互派遣、また学術シンポジウム、それから文化芸術面のパフォーマンスなど、さまざまな柔軟な活動を展開し、それをもって両国の若い世代の相互理解と友情を促進し、また中日友好のたき火を絶えることなく代々までバトタッチさせていきます。

このたび日本からは1府6県、また中国からは6省1市の主な責任者が北京に一堂に集まり、中日省長知事フォーラムを通じまして、今後の両国の地方交流と協力をめぐり、今後の大計を話すこととなります。ぜひ、今回のフォーラムは、今後の両国の地方交流と協力を促進する上で重要な役割を果たすことができると信じております。ぜひ皆様がこのフォーラムで率直に対話をし、突っ込んだ意見交換を行い、重要な共通認識ができ、解決ができるように心より期待しております。

また、フォーラムの円満なる成功を、この場をおかりしまして、あらかじめお祝いし、また知事の皆様、副知事の皆様、それから関係の友人の皆様が中国で楽しく過ごすよう、心からお祈り申し上げます。

私からは、以上を申し上げまして、あくまで皆様のご参考までになればと、幸いと思います。もし何か間違ったことがあれば、ぜひ遠慮なくご指摘いただければと思います。ありがとうございました。

## ○山田啓二全国知事会会長（京都府知事）

ありがとうございました。

本日はこうして唐家璇中日友好協会会長に、すばらしい晩餐の夕べを開催していただきまして、心からお礼を申し上げます。

そして、本当に長い間、日中友好のためにご尽力をいただきました唐会長に対しまして、改めて心から敬意を表したいと思います。

実は、こうして唐会長のお話を伺うのは、私は10年ぶりぐらいになると思います。そのときは大阪府の太田知事と兵庫県井戸知事と私の3人で中国に参りました。実はそのときも、非常に日中関係が難しい時期でありました。

それから10年経ち、日中関係はそのときと比べてもかなり緊密さを増し、まさに相互互恵の関係、ウィン・ウインの関係の中で、経済的な交流、人の交流は深まっているのに、残念ながらこうしてまた唐会長から日中間の問題を伺う事態になっているというのが現状だと思っています。

しかし、言い換えますと、親しくなればなるほど、交流が深まれば深まるほどお互いの意見がぶつかり合うときもあり、その中で軋轢が生まれることもあるのかもしれない。そうしたときもいつも一番大切なことは、やはりお互いの信頼関係、人と人との結びつきではないかと私どもは思っております。

私ども京都府の大先輩には、野中広務先生がいらっしゃいます。野中先生は、とにかくお互いにしっかりと意見を交換していかなければ、本当の理解は生まれないということをおっしゃっていました。

ただ、先ほど唐会長がおっしゃったように、心のしこりがある限り、お互いの意見は素直に入らない場合があるかもしれませんが、私たち地方は、両国の人と人との信頼関係を築けると思っております。

国は国としての役割があり、地方には、人と人との信頼関係を築く役割があると思っております。それは先ほど、まさに唐会長がいろいろな面でおっしゃっていただいたように、地方と地方との交流の中に本当に日中の未来をしっかりとつくり上げる役割があると信じております。

私どもも今回は6人の知事と1人の副知事が参りました。これだけの数の知事がそろって中国を訪れるのはなかなかないことではないかと思えます。そして、参加者の中には、若い知事も多く、多分、山口県の村岡知事は、日中国交正常化の後ぐらいに生まれたのではないのでしょうか。

こうした若い知事たちを中心に新しい時代が日中の間に生まれると思えます。その中で、本当に心のしこりのない時代が生まれてくると思えます。

今日の唐会長のお話をしっかりと受け止め、明日のフォーラムからまた新しい日中関係が生まれるように、地方から人と人とお互いに信頼できる関係が生まれるように、私たちも精一杯、努力をしていきたいと思えます。

改めて唐会長をはじめ、こうしてフォーラムの開催にご尽力をいただきました皆様に感謝を申し上げます。私からのお礼の言葉とさせていただきますと思えます。

### ○唐家璇中日友好協会会長

京都府の知事でいらっしゃり、また、全国知事会の会長でいらっしゃる山田先生の先ほどのお話、どうもありがとうございました。

実は、先ほどお話に触れられました野中先生のことに関して、私は野中先生とは非常に親しくさせていただいております。また、野中先生も私の非常に尊敬している日本の政治家でいらっしゃいます。野中先生は、今まで中日関係の長期的、健全かつ安定した発展を推進するために、たゆまぬご努力をなされ、また非常なご貢献をなされてこられました。帰国されましたら、もし会うことができれば、ぜひ私からの心からのご挨拶を伝えていただければと思えます。

まさに先ほど山田会長がおっしゃったように、現在確かに少なからぬ困難や問題があるかもしれませんが、しかし最も重要なのは、やはり両国の民間、知事の間、あるいは民間の人々の間、その信頼、相互信頼関係であります。そのような相互信頼関係が構築することができれば、心のしこりの問題は適切に処理し、少しずつ解決することができると思えます。

今回私どもが共催するフォーラム、その目的、その着目点の一つというの、やはり相互の地方の首長の間で率直な交流が行われ、突っ込んだ意見交換を行いまして、それをもって共通認識を拡大し、双方の意見の食い違いを縮め、またそれを通じまして両国の地方交流と協力を推進し、両国関係の改善と発展を促進し、そして両国の互惠関係を実現していくのが、私たちの目的であります。

明日からいよいよ本番が始まりますので、知事の皆様、きっとさまざまなご貢献があると思えますので、ぜひ明日のフォーラムで思う存分に発言していただければと思えます。

## 2. 李源潮国家副主席表敬訪問

【日 時】平成26年10月28日(火) 10:00～

【場 所】人民大会堂

【参加者】(全国知事会)

山田啓二会長(京都府知事)、泉田裕彦新潟県知事、平井伸治鳥取県知事

阿部守一長野県知事、三日月大造滋賀県知事、村岡嗣政山口県知事、

中下善昭広島県副知事、橋本光男事務総長

## IV 第2回日中知事省長フォーラム

【日 時】平成26年10月28日(火) 14:00～

【場 所】釣魚台第6号楼

【参加者】(全国知事会)

山田啓二全国知事会会長(京都府知事)、泉田裕彦新潟県知事、  
平井伸治鳥取県知事、阿部守一長野県知事、三日月大造滋賀県知事、  
村岡嗣政山口県知事、中下善昭広島県副知事、橋本光男事務総長  
(中国人民对外友好協会・中国日本友好協会)

李小林中国人民对外友好協会会長、張慶偉河北省長、李希遼寧省長  
姜勤儉陝西省長、鐘勉四川省常務副省長、曹小紅天津市副市長  
夏耕山東省副省長、甘榮坤湖北省副省長

【来 賓】日本側 木寺中国大使

中国側 劉建超外務部部長助理

### 1. プレゼンテーション

#### ○王秀雲中日友好協会副会長

ご来賓の皆様、友人の皆様、こんにちは。

中国人民对外友好協会、中日友好協会と日本全国知事会の共催による第二回日中知事省長フォーラムによろこおいでくださいました。中日友好協会副会長の王秀雲と申します。今日の会議の前半を司会させていただきます。

まず、ご臨席を賜った中日双方の主な指導者と来賓をご紹介します。

中国側ご来賓は、中国外交部部長助理、劉建超様。そして中国側参加者は中国人民对外友好協会会長の李小林様。河北省省長、張慶偉様。遼寧省省長、李希様。陝西省省長、姜勤儉様。四川省常務副省長、鐘勉様。天津市副市長、曹小紅様。山東省副省長の夏耕様。湖北省副省長、甘榮坤様。

次に日本側来賓は在中国日本国大使、木寺昌人様。そして日本側出席者は日本全国知事会会長、京都府知事、山田啓二様。新潟県知事、泉田裕彦様。鳥取県知事、平井伸治様。長野県知事、阿部守一様。山口県知事、村岡嗣政様。滋賀県知事、三日月大造様。広島県副知事、中下善昭様。以上です。ご来賓、ご来場の皆様に対して心から歓迎申し上げます。

まず中国人民対外友好協会会長、李小林女史に開幕の辞を頂戴したいと思います。

### ○李小林中国人民対外友好協会会長

尊敬する山田啓二会長、尊敬する中日双方の省長、知事の皆様、ご来賓の皆様、友人の皆様、こんにちは。

10月の北京、秋たけなわのよき日に、中国人民対外友好協会、中日友好協会と全国知事会の共催により第二回中日省長知事フォーラムを開催することになりました。まず、中国側主催者を代表して、ご臨席賜った皆様に心から歓迎の意を申し上げます。地方政府の皆様、そして今回のフォーラムに多大なご支援をいただいた皆様にお礼申し上げます。

2012年4月に第一回中日省長知事フォーラムは東京で成功裏に開かれて、地方間交流と協力を推進するため大きな役割を演じ、双方地方行政首長の相互信頼と理解が深める上でもよい交流となりました。しかし、残念なことに、第一回中日省長知事フォーラムが行われてから2年間の間に、中日関係は風雨にもまれ難航を強いられました。周知の理由で、中日関係は国交正常化以来最も厳しい局面に立たされ、それゆえ各界の有識者が深く憂慮するところです。そうした中にもかかわらず、本日、両国の多くの省長と知事が大勢、再び2年ぶりに一堂に会して、地方間協力、発展の大計をともに語ることはまことに喜ばしいことです。特に、両国地方政府による友好推進に向けての確固たる信念、そして両国関係の早期改善と進展の要請が切なる期待を示すものがあり、今後の国地方交流と協力を重要かつ深遠な影響を及ぼすことでしょう。

ご来賓の皆様、友人の皆様、隣同士として、中日両国は地理的に近く、文化が共通し、利益が融合する2,000年以上の友好往来史を有します。中日国交正常化後、40数年来、各分野での交流と協力はかつてないレベルに達しました。昨年 of 貿易額は3,126億ドルで、国交正常化当時の約280倍になっております。同じく人的往来は延べ500万人近くとなり、毎日数十便のフライトと1万人余りが両国間を往復しております。友好都市は主要都市と重要な地域をほぼカバーする252組に達しています。どれも「一国が栄えればともに栄え、一国が損なえればともに損なう」利益と運命共同体となり、連携協力してウイン・ウインの道を歩むほかなく、それによってのみ中日関係はすばらしく、洋々たる展望が開かれることを物語っております。

当面の中日関係は、双方の各分野における交流、協力を、程度の差はあるが悪影響を与え、両国民の根本利益に合致しないばかりか、平和と発展という時代のトレンドにもマッチしません。平和を愛する中華民族であり、中国人民であるゆえ、日本を含む世界各国の人々と仲よくつき合い、一緒に前進することを望んでおります。中国は引き続き「隣国に親しみ、隣国をパートナーとする」という近隣外交を説き、周辺地域の維持と発展の環境を整える一方、隣国に接する親善、誠実、互惠、包容を心がけて中国の成長は周辺諸国にも裨益すべく努力しています。日本各界の有識者とともに、中日友好の信念をしっかりと持ち、中日関係が早期に健全な発展軌道に戻るお互いの合流、協力を力を入れ、国民感情の増進に努め、友好関係発展の基礎固めに身をもって取り組んでいく所存です。

ご来賓の皆様、友人の皆様、両国の地方政府と各界有識者の共同努力のもと、中日地方交流協力は各分野で盛んに行われ、実り多く、国民感情と相互理解の増進に期待すると同時に、それぞれの経済、社会の発展に絶えずダイナミズムとバイタリティーをつぎ込んでおり

ます。中日関係の発展プロセスで、地方交流は両国友好往来の重要な一面のツールとして、今までに増して重要な責任と役割を担っており、将来的により大きな力を発揮するに違いないと感じます。

そういう意味で、第二回中日省長知事フォーラムの開催は時宜を得たものです。ご在席の省長、知事の皆様には両国の地方交流の推進者と実践者であり、地方と民間交流の促進に向けて、真剣に努力されてきました。「実務的協力の強化により、共同発展を実現」というテーマをしっかり捉えて、当面の情勢のもとで両国の地方交流と協力をいかに深めるかについて率直的、実務的にご議論お願いして、貴重なご意見とご提案を賜ればと思っております。

私たちの共なる努力で、今回のフォーラムは必ずや積極的な成果を含め、中日地方交流、協力を手本を示すものとなるでしょう。両国の地方政府は今後も手を携えて共に進み、交流と協力の先頭に立って、両国関係の改善と発展に大きく寄与するものと確信します。

終わりに、第二回中日省長知事フォーラムの開催の成功を祈念して、私の挨拶にかえさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

#### ○王秀雲中日友好協会副会長

李小林会長、ありがとうございました。

続きまして、日本全国知事会会長、京都府知事、山田啓二様に開幕の辞をお願いいたします。

#### ○山田啓二全国知事会会長（京都府知事）

尊敬する李小林会長をはじめ中国人民対外友好協会の皆様、中国日本友好協会の皆様、そして本日ご出席の中国各省代表の皆様、このフォーラムの開催に当たり大変なご尽力をいただきましたことに対して、心から御礼を申し上げます。

今回のフォーラムにつきましては、第2回目になりますけれども、私ども全国知事会と中国日本友好協会との交流は大変長い歴史がございます。1972年の日中両国の国交回復からわずか2年後の1974年に第1回目の交流事業として、日本から中国への訪問が実現いたしました。

この間、今お話がありましたように、日本と中国の関係というのは飛躍的に密接なものとなりました。人的往来は、先ほどお話がありましたように500万人近くになり、また貿易額も本当に大変な額になっていますし、さらに日本からは7,000社を超える企業が中国に現地法人をつくっているところであります。まさに、この40年間で日本と中国の関係というのは、単にお互い手をつないでいるだけではなくて、手をつないだその中に、いつの間にか血管がつながり、神経がつながり、一衣帯水の両国の関係は今や切っても切れない関係になっていると思います。まさに相互互惠の関係が今でき上がっているのが日中間だと思えます。

ただ、その中にありまして、国と国との関係においては幾つか難しい点があるのも、これまた事実であります。私たち日本の各地方公共団体の首長は、まさに日本の発展のためにも、中国の発展のためにも、両国間が平和で安定的で友好的な関係になることを心から願っているところであります。そして、その中で私たちは、国と国との関係が難しい問題を抱えているときこそ、こ

の地方間の交流というのはさらに必要になると痛感をしているところであります。お互いの国同士には、お互いの主張がありますが、その主張をぶつけ合い、真の友好関係が生まれるためには、日中両国の深い理解と人間同士の信頼の絆が必要であります。私たち地方同士の交流というのはまさに顔と顔の見える、人と人がしっかりとお互いの理解の上に成り立つ関係を築いてまいりました。私ども京都府は陝西省と長い友好の歴史があり、昨年、友好提携締結30周年を迎えて、陝西省の州都であります西安を私も訪問させていただきました。今日、参加しているそれぞれの知事、副知事も皆、中国と長い友好の歴史を持ち、お互いの顔の見える関係の中で理解を深めてまいりました。

そして同時に、もう一つ私たち地方は日中友好に大きな役割を果たせる分野があります。それは環境の問題、地域経済の問題、さらに高齢化や福祉の問題など、両国が抱えている共通の問題を解決する方法をそれぞれの地方公共団体が持ち、お互いに協力をし合えるということであります。まさに地方交流は、相互互恵の形が基本であると思います。

この日中の知事、省長の交流もこれから新たな局面を迎えます。今まではそれぞれが訪問し合い、そして交流をしておりましたけれども、前回からはフォーラムという形をとらせていただいております。共通の問題を話し合うことによって、今までにない新しい相互互恵の関係をこのフォーラムからつくり出し、これをもとに各省と各都道府県がさらなる友好の絆を深めていくことができることこそが、日中の平和と安定のために私たちにとって欠くことのできない基礎をつくり上げることを私は信じております。

今回のフォーラムを通じて、両国の地方政府の関係がこれまで以上に有意義なものとなり、そして友好交流の輪の広がりの中で一衣帯水の両国がしっかりと手を握り、そしてこれまで以上に安定と平和が築かれることを願い、私の挨拶とさせていただきますと思います。

本当にありがとうございます。

#### ○王秀雲中日友好協会副会長

山田知事、ありがとうございました。

それでは、ご来賓の挨拶に移ります。

まず、劉建超様をお願いいたしたいと思います。

#### ○劉建超外交部部長助理

尊敬する知事の皆様、各省長様、市長様、尊敬する木寺昌人大使、李小林会長、ご来賓の皆様、第二回中日省長知事フォーラムの開催に当たり、会議の開幕式に招かれ出席することができて、大変うれしく光栄に思います。ここで、謹んで中国外交部、また王毅部長を代表してフォーラムは成功裏に開催されることをお祝いするとともに、日本の皆様のご来訪を歓迎し、また日本と中国側の各省長、各知事の皆様を中日関係のために尽力されたことに感謝申し上げます。また、今回のフォーラムの成功のためにご努力をされた関係者の皆様に敬意を表したいと思います。

中日両国は重要な隣国同士であり、長い友好往来の歴史を有しています。両国は世界の重要な経済体として、この地域と世界の平和、安定と繁栄に重要な役割を担っております。中日両国は平和友好・協力のウィン・ウインの道をともに歩むことは両国及び両国国民の根本的な利益に合致するばかりではなく、本地域と各国国民の共通の課題にもなっています。中

国政府は、中日関係を発展させることを大変重視し、積極的に取り組んでおります。我々は一貫して中日共同声明など4つの政治文書に基づき、歴史を鏡とし未来に目を向けるという精神を踏まえて、両国関係の健全かつ安定した前向きな発展を推進していくことを主張しています。

中日友好のよりどころは民間にあり、地方交流はずっと両国関係発展の重要な分野です。戦後、中日関係の立て直しと発展の歩みにおいて、両国の民間団体と地方政府はかけがえない重要な役割を果たしました。現在、中日間で友好省県と姉妹都市は250数組も超えています。このデータを見たとき、ちょうど中日関係を担当したばかりのころ、250数組の友好姉妹都市を結んでいるというデータを見て大変驚きました。両国の地方交流は幅広い協力分野にわたり豊かな成果を上げ、日中の交流を実施する上で中日関係の貴重な財産であり、双方は一層大切にし、丹念に読まなければならないと思います。

この2年間、中日関係はご承知のとおりで、持続的に厳しい困難な局面に直面しております。諸分野での交流等、深刻な影響を受けました。このような正常な状況は両国人民の共通した権利と利益に背いています。双方は中日間の4つの政治文書の原則精神と、今まで達成された了解事項と語彙を切実に話し、関連の問題と食い違いを善処し、両国関係は政治的な障害を乗り越えて正常な発展の軌道に乗りますよう推し進めていくべきです。それを実現するには両国政府の持続的な努力と、両国地方と民間各界の力強い秩序が欠かせません。両国の地方間の対話、交流のハイレベルのプラットフォームとして中日省長知事フォーラムは両国国民の相互理解の促進、友好感情の増進、両国地方の互惠協力の進化と共同発展の促進にとって重要な意味を有しております。中日双方の参加者は、率直で実務的な交流と意思疎通を通じて新たな協力合意を共有し、両国の地方交流を新たな段階に押し上げ、両国関係の改善と発展に貢献するよう切に期待しております。

最後に、今回のフォーラムが成功裏に終わりますようお祈りします。ありがとうございました。

#### ○王秀雲中日友好協会副会長

劉建超部長助理、ありがとうございました。

続きまして、木寺昌人在中国日本国大使にお言葉を頂戴したいと思います。

#### ○木寺昌人在中国日本国大使

尊敬する中国人民対外友好協会、李小林会長、日本全国知事会、山田啓二会長、中国外交部、劉建超部長助理、ご列席の省長、知事の皆様並びにご来場の皆様、まずは中国人民対外友好協会、中国日本友好協会、日本全国知事会の主催による第二回日中知事省長フォーラムがかくも盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げます。

私は、一昨年12月に着任して、既に1年10カ月が経過いたしました。しかし、着任して以来、本日が私にとって一番うれしい日でございます。というのも、日本の7府県の知事が訪中され、中国の7人の省の指導者の方々と一堂に会してこのようなフォーラムを開催することができるというのは大変意義深いことでございます。日中関係の改善に向けた大きな一歩であると、これを確信しております。フォーラムの開催に向けた関係者の方々のご努力に深く敬意をあらわしたいと思います。

私は、大使としてこれまで14の地方に出張してまいりました。本日、指導者の方がいらつや

っている省のほとんどに訪問させていただいたことがあり、そのいずれの地方でも活発な日中交流の現場を見させていただきました。地方訪問の際には、私は時間の許す限り日系企業の視察、日本語を学ぶ中国人学生との交流、現地で活躍する経済人や研究者との意見交換など、さまざまな活動を行ってきました。こうした中で、中国各地の至るところに日中関係のために尽力されている方々がおられることに非常に感銘を受け、そのご努力により今日の日中両国の関係が極めて幅広く深いものへと発展してきたものであると実感いたしました。

依然として日中両国間の政治関係が厳しい状況に変わりはありませんが、本年4月ごろから日中間では対話の機会が徐々にふえ、文化交流や青少年交流、経済交流といった民間交流が回復基調にございます。その中でも地方間の交流が極めて重要な役割を担っていることは言うまでもありません。1973年に神戸市と天津市が日中間で初めての姉妹都市提携を結んだのを皮切りに、今や日中両自治体間では354もの友好都市、友好姉妹都市関係が存在しております。現在のように日中関係が困難な時期にこそ、このような地方間の交流を初め国民レベルでの相互理解や相互信頼を深めることが大変重要でございます。地方間交流が日中関係の発展に果たしている貢献に改めて感謝するとともに、両国の関係者の方々のご努力に深く敬意をあらわしたいと思います。

また、同時に私自身もこの機会に日中友好への思いを新たに、今後とも日中の相互理解と相互信頼を深めるために全力を尽くす所存ですので、引き続き皆様のご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

最後になりますが、日中の地方交流のより一層の発展とご列席の皆様のご健勝をお祈り申し上げますとともに、日中両国の明るい未来と日中関係のさらなる発展を心から願って、私の挨拶とさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

#### ○王秀雲中日友好協会副会長

木寺大使、ありがとうございました。

劉建超部長助理と木寺大使は今回ご公務のためここで退場されます。劉建超部長助理と木寺大使ありがとうございました。熱烈な拍手をお送りしたいと思います。

それではフォーラムにおけるプレゼンテーションセッションに入ります。

ご参会の省長と知事の皆様方、実務的協力の強化による共同発展の実現に向けてご発言いただきます。

張慶偉河北省省長からどうぞお願いします。

#### ○張慶偉河北省省長

尊敬する李小林会長、尊敬する山田啓二会長、ご来賓の皆様、友人の皆様、こんにちは。

河北省は長野県、鳥取県と友好提携を結んでおり、首都北京と直轄市天津を取り囲み、環渤海核心地域に立地する中国北部の重要な沿海省で、総面積18万8,000平方キロ、人口は7,300万人余りで、487キロの海岸線を有します。河北省の歴史は文化が重厚で、自然資源にも恵まれ、便利で交通機関の完備した整えた産業の地、経済と文化の大省として知られます。2013年のGDP高は2兆8,301億人民元で、輸出入総額548億8,000万ドルを達成しました。北京、天津、河北の協調発展という世紀の重要な戦略の実施

に伴って地域の発展が加速し、河北省は中国で最も活気と可能性を秘めた地域の一つとなっております。

河北省の発展は世界各国、地域との交流協力を切り離してはいけません。日本は河北省にとっても重要なパートナーです。交流と協力を長年来、社会各界の共同努力により良好な進展を保っております。今、省内地域都市は日本と14組の友好都市関係を結び、そのうち83年に長野県と、86年に鳥取県と友好提携しました。2014年上半期現在、省内に進出した日系企業は922社、投資総額は30億6,000万ドルで、今年、1月から8月にかけて日本との輸出入総額は16億8,000万ドルを達成し、去年同期比17.9%を達しています。

経済のグローバル化と地域経済一体化のさらなる進展が深まっていることにつれて、協力促進、互惠共益は世界経済の新しい姿となっています。世界第2位と第3位の経済規模を持つ中国と日本の交流強化は、両国経済の発展はもとより両国民の相互理解の増進にもプラスになります。地方協力は民間協力を下支えするもので、河北省は日本の地方政府と実務的な協力を強め、ウィン・ウインの実現を求めています。

1点目、生態環境の整備と経済のパラダイムシフトは河北省にとっては厳しい立場です。生態環境の改善、資源利用効率の向上及び重化学工業からの脱却など、日本は先進技術と経験を蓄積されています。双方の環境保護分野の協力によって大気汚染対策と生態環境保護を高めたいと願っております。

それから、サービス貿易の協力、サービス業のスピードアップ、シェアアップ、レベルアップ、本省産業構造調整戦略の重点です。日本はサービス貿易の先進国ですので、各自強みを発揮し、サービス貿易協力の接点をより多く見出して協力水準を引き上げたいと願っております。

3点目、ハイテク協力、河北省では各種の主導型発展戦略を実施し、戦略的な新興産業の発展を加速させております。製造業、ソフトウェア開発、IT、バイオ製薬などの分野で強い技術力がある日本とハイテク産業を協力の重点に新たな協力のスポットを創出したいと願っております。

4点目、スポーツ産業協力、北京市と河北省張家口市は今、2022年冬季オリンピック大会の共同招致に取りかかっております。日本は冬季オリンピックなら札幌市と長野県で開催したご経験があります。オリンピック大会の施設や競技場の整備及び大会運営などで協力し、お互いのスポーツ事業の発展に資したらと願っております。

河北省はずっと唐山市、曹妃甸での中日エコインダストリーパークの造成に取り組んでおります。日本の地方政府と共同で推進すべく後押しし、一日も早い完成を見たいと思っております。

以上、ご清聴ありがとうございました。

#### ○王秀雲中日友好協会副会長

河北省省長、ありがとうございました。

全国知事会会長、京都府知事、山田啓二様にご発言願います。

#### ○山田啓二全国知事会会長(京都府知事)

それでは、私のほうから発言をさせていただきます。

私のほうは、観光に絞ってお話をしてみたいと思っております。と申しますのは、京都というのは日本でも最大の観光地で、本当に国内外から多くの人が集まってくるところでありますし、今年7月には世界的に権威のあるアメリカの旅行雑誌において、世界で一番行きたい都市として京都市が選ばれたということもあります。

そうした中において、中国からの観光客の数も非常に今多くなってきております。東日本大震災のときはかなり減ったのですが、その後、順調に回復をし、今年は多分過去最多になるのではないかと考えておまして、観光分野は大変大きな可能性を持っております。

そして、その可能性の中で、日本と中国の理解を促進するために、京都は大きな役割を担うことができると思います。もともと京都というところは1,200年前に唐の時代の都である長安に倣ってつくられたまちであります。今も京都は当時の中国の都の面影を残している数少ない都市として、いろいろな建築物に中国の文化的な影響をたくさん残しているところであり、日本と中国の長い友好の歴史を確認することができるのが京都であります。

そして、同時に1,200年の歴史の中で、京都は日本独自の文化を育んでまいりました。茶道やいけばな、能などの日本の固有の文化というものは京都で生まれ、そして今も栄え、さらに、その中にもまた、日本のオリジナルの部分と中国の文化の影響というものが常に感じられるのが京都の文化であります。能の多くの題材の中には中国の古典を題材にしたものもあり、また茶道では抹茶を使います。これは乾燥させた茶葉を石臼でひいて、そしていただくわけですが、もともとこれも中国で生まれたもので、中国では抹茶の習慣は現在かなり無くなっておりますが、日本では、茶道として大きな発展を遂げております。こうした日本と中国の交流の歴史、そして文化の交流の歴史を京都で見ることができるのです。

教育交流の面では、日本各地から毎年100万人もの子供たちが修学旅行、教育旅行で京都を訪れており、中国からもここ数年は多くの教育旅行の学生を京都は受け入れております。京都でこうした日中の若い人たちが交流をすることが、まさに日中の深い関係を改めて理解する上で、新しい時代を発見できる大きな源になるのではないかと思います。

また、私どもは陝西省と30年の友好提携の歴史があり、現在、府立北桑田高校は毎年西安を訪れて植林活動を行っております。お互いの環境は、一衣帯水、切っても切れないものであることを子供たちがこうした植林活動を通じて理解をしていくといった、こうした一つ一つのことが私たちは未来を築く礎になると思っております。

さらに、京都には47の大学があり、日本で人口当たりの学生数が一番多いのは京都です。そして、京都から出たノーベル賞の受賞者は実に10名になり、日本のノーベル賞受賞者の約半数が京都関係者であります。学問の面でも、留学の面でも、京都で学ぶこと、京都で交流することは大きな意義があります。

産業交流の面では、今、京都からは実に176社を超える企業が中国に現地法人をつくり、工場や販売拠点も471拠点上っております。京都と中国のこうした経済の関係というものを考えるときに、そしてこれまで申し上げたような文化の観光、教育の観光とともに、次に産業の観光という分野も私たちはまた考えることができると思っております。京都の南部にあります関西文化学術研究都市は、北京の中関村のサイエンスパークや大連のサイエンスパークと交流に関する覚書を結んでいるところであります。そして、ここでは、ナノテクやバイオなど、環境に関する研究所が今大きな成果を上げつつあります。この産業観光を通じてお互い交流することによって、例えばiPS細胞による再生の分野や、気候変動に対する二酸化炭素の処理の問題な

ど、さまざまな分野に関することや問題の対処方法を学ぶことができ、産業観光によって、未来を切り拓くことができると思います。

以上のように、文化の交流によって日中の長い歴史を学ぶことができ、教育交流によって次の世代の理解を促進し、産業交流、産業観光によって新しい課題への解決の糸口を見出すことができる。私は、京都にそういう役割を担わせていただければ大変うれしく思っております。

かつて周恩来元首相は京都に留学された際に、「一筋の陽光が雲間に射す」という「雨中嵐山」の詩を詠まれ、その碑が京都にあります。ここには今も多く日本人や中国からの観光客の方がおいでになられます。まさにこの京都から日中の間にまた新しい一筋の陽光をしっかりと射すことができるように、これからも京都府は全力を挙げてまいりたいということを最後に申し上げまして、私のプレゼンテーションとさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

### ○王秀雲中日友好協会副会長

山田知事、ありがとうございました。

次に、李希遼寧省省長にご発言をお願いします。

### ○李希遼寧省省長

尊敬する李小林会長、山田啓二会長、ご臨席の省長、知事の皆様、こんにちは。

本日、第二回中日省長知事フォーラムに出席できたことを大変うれしく思います。遼寧省人民政府にかわりましてフォーラムが開催されたことに対してお喜び申し上げます。

遼寧省は中国東北地方の南部に位置し、東北地方唯一の海沿いに国境を有する省です。重要な工業立地として遼寧省の産業基盤は厚く、インフラもよく整備されております。装備製造業と機材産業が発達し、造船、工作機械、送変電、冶金鋁山、石油化学等装備製品と鉄鋼、石油化学工業が全国でも重要な位置を占めております。また、鉄道の密集度は国内各省でも群を抜いています。道路総延長が11万キロ、陸地県における高速道路での全域カバーを実現しました。また、東北地区近県の空港、港湾ネットワークを擁し、7つの空港、45本の国際航空路が整備され、そのうち日本の航空路は13本あります。港は6つ、日本路線3本を含む国際海運路線92本が開通しています。技術と教育が進んだ省でもあり、115の大学、15の国家重点ラボ、12の国家工程技術研究センターを有し、関連従事者が27万人に上ります。

東北新興戦略の実施で本省の経済社会はより立派に、より早く発展してきました。2013年度、GDPは2.7億元、ランキング7位になっています。歳入は3,300億元を超え、都市部住民1人当たり可処分所得は2万5,000元以上、農村部住民1人当たりの純収入は1万余元余りで、遼寧省は対外開放を大変重視し、日本との交流、協力に力を入れてきました。日本の19の県、市と友好提携をし、2013年現在、日系進出企業による投資総額は累計199億8,000万ドルに達しました。

新しい一連の新興戦略の実施に伴って、本省は歴史的発展の機会を手に入れました。日本各地と全面的に各分野で交流と協力を展開し、互惠共益の発展を目指していきたいと思っております。

1、経済貿易交流の進化。本省は産業構成調整、グレードアップを急ピッチで進めております。対外開放の拡大に大きな可能性を秘めております。今後、先進設備による製造、電子情

報、ファインケミカル、バイオ創薬、農産物加工やハイテクなどの面において日本との交流と協力を強めたいと願っております。

2、省エネ・環境協力。遼寧省は環境に優しい資源節約型社会づくりを目指し、従来型工業基地として省エネ・環境保護の可能性は極めて大きいです。この面で、両方の技術を持つ日本企業と協力を深化、拡大させていきます。

3、老後介護分野の協力。遼寧省は高齢化社会に突入しており、高齢者向けサービスや介護製品に対するニーズが高く、マーケットは拡大しております。高齢化社会に対応する豊富な経験を持ち、医療施設や関連企業も多いため、高齢者事業や老後介護産業協力を将来性が大きいと思います。

4、文化観光交流の推進。遼寧省には6つの世界文化遺産、そして見どころは700余りございます。毎年、大勢の日本人観光客が訪れております。また、遼寧省民も日本に赴き、日本でのバケーションを好みます。今後、双方が連携して観光商品の共同開発とPRを強め、アクセシビリティと出入国手続の円滑化を図り、相互の観光事業の発展を期したいと思っております。

皆様の遼寧省へのご訪問をお待ちしております。ありがとうございました。

#### ○王秀雲中日友好協会副会長

遼寧省省長、ありがとうございました。

続きまして、新潟県知事、泉田裕彦様にご発言願いたいと思います。

#### ○泉田裕彦新潟県知事

本日は、第二回フォーラムに参加をして、日中両国の友好関係を深めることができる機会を得たことを喜び及び感謝を申し上げます。李小林会長を初め、中国各省代表の皆様方に感謝を申し上げます。

新潟県の位置、この地図をごらんいただきたいのですが、日本海側の真ん中ぐらいに位置しているのが新潟県になります。そして、新潟県は2004年、2007年と大きな地震に見舞われました。今年、8月に四川省、雲南省において発生をした地震で被災された方々に心よりお見舞いを申し上げます。また、新潟県が地震に遭った際にご支援をいただきました中国の友人の皆様方に心より感謝を申し上げます。また、その後、この被災の状況、復興の状況でご視察をいただきましたことを感謝申し上げます。

新潟と中国の交流であります。国交正常化を実現をしたときの日本の総理、田中角栄元総理のふるさとなります。新潟県はこの田中元総理のふるさとということから、中国の友人の皆様方に対して大変親近感を有しております。

そして、また日中友好の象徴としてトキが送られております。今、佐渡島におきましてこの自然復帰をしたトキが空を舞っております。トキの大変美しい羽を佐渡、新潟県で見ることができます。

また、先日、李小林会長を団長とする上海歌舞団が新潟県を訪問していただきまして、日中両国の研究者によるトキを絶滅から救った物語を開演していただきました。大変多くの人の心を揺さぶるすばらしい演劇でありました。来年、全国で、日本中で、また中国で公開されることを期待いたしております。

そしてまた、新潟県は黒龍江省と30年の友好交流を行ってまいりました。新潟県の位置というのは首都圏と北東アジアを結ぶ結節点になります。スライドをお願いします。

この首都圏ですね、結ぶ日本海側の拠点都市としてさまざまな形で貿易、そしてまた物流を進めてまいりたいと考えております。そして、2010年6月には、本州日本海側初の中国総領事館を開設していただきました。今、第2代目の総領事である何平総領事に就任していただいております。

日本海を横断する航路のプロセスを、今日は残念ながら吉林省の省長さんは参加していただけなかったのですが、この吉林省を中心とした東北部との、この貿易の時間短縮を期待いたしております。時間的には9日かかっていたサービスが4日ですむだろうということをご期待いただいております。

また、新潟県は経済交流拠点を中国各地に設置をしております、遼寧省大連に事務所を設置しております。現在、長春市、ハルビン市にビジネス拠点を設置をしております。今年度には、四川省成都市で物産展の予定をしているところでございます。そのほかビジネスコーディネーターを瀋陽、天津、青島、上海、香港にも配置をいたしております。

新潟県の産業集積であります、農業で有名でありますけれども、GDPベースで見ますと自動車、電機の部品製造、ここでGDPのかなり大きな部分を捻出しております。また、健康ビジネスにも参入する、食品産業も強みを持っております。

次、お願いします。医療福祉分野での最先端の商品開発、研究を進めておまして、左上をごらんいただきたいのですが、この痛くない注射針の開発が進められています。また、右上ごらんいただきたいんですが、床ずれをしない、介護が簡単なベッドをつくっております。また、これはハビリをするときに有効だということが証明されているのですが、ロボットスーツ、この開発がもうすぐ完成ということです。また、脊椎用のインプラントの開発も進めております。

次に、エネルギー分野であります、新潟県には世界最大の原子力発電所も設置をされておりますが、あわせて再生可能エネルギーの導入も進めております。メガソーラーのほかにバイナリー地熱発電、これ温泉の熱で発電できるという全国初の施設が今設置をされています。また、地中熱の活用、雪が降る国、「トンネルを抜けるとそこは雪国であった。」川端康成の小説に出てくる新潟県であります、この雪冷熱の利用でデータセンターの設置を今エネルギーとして進めているところであります。

中国へのビジネス展開であります、商談会へ積極的に参加をさせていただいております。昨年はこの環境保護展に北京で参加をさせていただきました。また、国際工業博覧会で上海でも出展をさせていただきました。例えばバイオガスの発電機、空気清浄機、廃棄物の破砕機などがあります。そのほかコンサルタントの派遣等、環境ビジネスについて、中国の皆様と協力していければと思います。

最後に、観光になりますが、今も申し上げました雪国、日本初、日本のスキーの発祥の地、これが新潟県になります。全国有数のスキーリゾートを持っており、京都にも多いのですが、芸者さんも新潟にいます。お酒を飲んでいただいた後に酔って日本らしさを堪能していただくにはいいと考えております。それから、日本一のおいしさを誇る新潟コシヒカリ、そしてまた海の幸もこれは豊富にありますので、ぜひ日本にお越しの際には新潟にも足を伸ばしていただければと思います。どうもご清聴ありがとうございました。

## ○王秀雲中日友好協会副会長

泉田知事、ありがとうございました。

続きまして、陝西省婁勤儉省長にお願いしたいと思います。

## ○婁勤儉陝西省省長

尊敬する李小林会長、山田啓二知事、ご来賓の皆様。

中国と日本のいずれもアジアの主要な経済体であります。戦略と全面的な角度から双方の経済貿易協力をする必要があります。陝西省というのは唐の時代に、長安の時代に深い関係が築かれました。近代に入ってから陝西省と京都府の間に奈良、そして香川、愛媛とも友好関係を構築しました。

中国西部大開発以来、陝西省の成長は目覚ましく、経済総額は全国の21位から16位に上がりました。総額は1兆6,000億元を達成し、1人当たりでは7,000ドルに近づいています。対外貿易の協力も絶えず強化され、83の国や地域が陝西省に投資しています。サムスンやマイクロソフトなど世界トップ500社が登録しております。今年の上半期、経済の成長率は9.7%、全国7位にランクされています。民衆生活の改善、環境保護及び社会事業が強化され、中国で最も活気あふれる地域の一つになりました。

中国経済が中高度成長期にあり、中高レベルへの発展に走り、新たな技術の中、陝西省では産業構造調整、品質と効率の向上をめぐる構造の最適化と新たな基幹産業育成を重点に置き、エネルギー産業の進展に取りかかりました。

1つは、資源の二次転換に注力します。陝西省はエネルギーを適切に排出し、石油、バイオマス、石炭などいずれも補助が中国でトップスリーに入っております。エネルギー産業のハイレベルな成長を目指すのが我々の責任であり、環境保護にも責任を持つべきであります。特に今年、陝西省の石油、石炭のミッションを達成してあります。

2つ目はIT産業のスケールアップと強化です。サムスン電子の10ナノフラッシュメモリー事業の立ち上げと関連企業であります。全国の世界一流のIT拠点づくりに着手しています。

3つ目は文化観光産業の充実化です。陝西省はすぐれた歴史文化資源に恵まれ、自然景観がすぐれ、中国の絵画、文学創作と映画制作の要衝となりますので、文化観光産業の基盤がしっかりし、近年急成長を遂げております。2013年、日本人観光客は延べ12万3,600人に達し、日本が3番目の招客マーケットになっています。

4つ目は、新エネルギー施策など、先進製造業新興を加速すること、特にサムスンSDI動力電池の進出とBYD新エネ車生産拠点の完成によって、国内新エネ車製造の重要な省に仲間入りしました。

陝西省は以上の目標を実現するだけの条件に恵まれております。文化、観光、研究、教育や鉱物資源がふんだんにあるので、中国半島の比較的中心に位置する関係で、各地にアクセスする半径が最短で物流コストが最も低く、全国の重要な交通ハーバーであること。特に西安国際港務局は全国10数カ所の陸海の港とリンクし、西安税関が上海FTZ税関監督システムを全国に先駆けてコピー普及できる3つのモデル地域の一つに指定されています。対外開放環境はそれによって一段とよくなりました。

今、特に習近平主席、シルクロード経済ベルト帯、ベルト構築の構想が打ち出され、陝西

省は国の要請に応じてシルクロード経済ベルトの新たな出発点創生、西部ITの新しいエンジン創生、中国独自の新型都市化発展の水先案内など、内陸部改革開放の新モデル地域を鋭意果たしています。中央政府から与えられた重大使命とはいえ、みずからの強みを生かして成長する戦略的ポジショニングそのものでもあります。中国の西部や中央アジアなどに進出する拠点として自国企業を陝西省に置きたいと多くの国が示しています。日本の企業も陝西省でならきつと発展するだろうと信じます。

陝西省と日本の友好往来は古く、1983年に京都と友好提携して以来、実り多い交流がありました。経済貿易、科学技術、教育及び文化にわたってさまざまな行事を100回以上開催し、日本は陝西省にとって5番目の貿易パートナーとなって、日系企業の投資案件は330件ございます。特に去年、山田啓二知事が陝西省を訪れるまで趙正永書記と重ねて会談をより多くの分野で交流する合意ができました。いずれも陝西省と日本の協力強化に土台づくりをするものです。日本の企業と発展のチャンスを共有し、手を携えて経済協力の新たなスポットづくりができればと願わずにはられません。

知事の皆様、陝西省にまだおいでになってない西安、重陽をご存じでないということをお伺い、残念でございますので、ぜひこれでお越しくださいますようお願い申し上げます。ありがとうございました。

#### ○王秀雲中日友好協会副会長

姜勤儉陝西省省長、ありがとうございました。

続きまして、鳥取県知事、平井伸治様にご発言願います。

#### ○平井伸治鳥取県知事

私どものほうから、また交流の状況についてご説明申し上げますが、この表を見ていただきますとおり河北省、吉林省と交流をさせていただいております。大切なのはルートをつくることだと思います。交流する海路、空路、陸路、それを検索していく、そういう協力がこれからは大切なのではないかというふうに考えております。

私どもの1人の日中友好の先駆者が古井喜實先生、左側にその像がございます。実は、この石の台と上の像をつくる人たちが違ったため、大きさが合ってなくて下の台のほうがやたら大きくなっております。ただ、これだけですね、やはり多くの方々が日中友好を築いた先駆者、古井先生を何とかたたえようと鳥取県でもこういう像がつけられました。

それから、遠山正瑛先生でございますけれども、砂漠を緑化しようというふうに立ち上がりました。やらなければならない、やればできる、それを日中両国の人たちに呼びかけまして、ついに100万本の木を植えることに成功しました。こういう先駆者に導かれながら鳥取県の日中友好が始まっております。

これがその交流の状況でございます、さまざまどころですね、市町村も含めて交流をいたしております。

これは河北省との交流の状況、様子でございますけれども、河北省とこれは友好憲章を制定させていただきまして、25周年のときに、今日ご出席の張慶偉省長にもお会いをさせていただきました、両省県の人たちと一緒にお祝いをさせていただきました。

また、鳥取大学は、これは遠山正瑛先生が通っていた大学であります。ここは砂漠緑化の

研究拠点でございますが、ここでは中国各地の研究所と結びながらエコ研究活動をしております。

また、吉林省における交流でございますが、子供たちや貿易投資関係、文化関係などの幅広い交流をさせていただいております。先ほどまでいらっしゃいました劉建超先生も吉林省のご出身だと伺っております。

それから、こういうふうな交流を、さらに私たちはもっと大きな目で国境を越えて広げていかなければならないと思っています。そういう意味で、これは韓国あるいはモンゴル、ロシアと一緒に なりまして地方公共団体ネットワークを今築こうとしておりまして、我々北東アジアの経済の中心地として、世界の中心地として発展をさせるためにこういう活動をする必要があると考えます。

これがその地図でございますけれども、鳥取県の境港というところから東海、これは韓国の東海岸、さらにはロシアを結ぶ航路ができております。また、上海を結ぶ航路も境港でございますし、釜山だとか韓国を經由して青島、大連、天津などを、そうしたところにも行っております。現に私どもの企業は青島だとか大連だとか河北省だとか、そうした中国各地に企業が進出をして、このような経済交流もできております。

こういうものを発展させようと、今国連のUNDPの中に大図們江イニシアチブというのがありまして、GTIのそういう協力事業、プロジェクトをやろうということで各地各国が参加をしています。こういうようにして物や人の流れをつくっていく、そういう具体的な行動を起こすべきではないかと思えます。

これが韓国を通じながらショートカットで中国の渤海地方に船をつなげていく、そういうルートでありまして、現実にも毎週行うことができる、そういう実験を行っております。

さらに、最近では中国のお客様もお見えになるようになりました。つい10月23日には3,300人のお客様を乗せまして、ここにございますマリナー・オブ・ザ・シーズという船がやってきました。中国のお客様が境港のほうへと入ってこられたわけでありまして。もう我々、地方政府の協力関係が切り開いた友好交流が経済的、観光面での交流へと発展をしているということだと思えます。

鳥取県、さまざまな魅力たくさんあります。大山という富士山とそっくりな山もございます。それから、二十世紀梨とか、松葉カニですとかですね、西瓜とかそういうおいしい食べ物もございます。ぜひ鳥取県にも皆様お越しをいただければと思います。私もぜひ西安にお訪ねさせていただきたいと思えます。

私たちのこの交流を次の代へと引き継いでいかなければなりません。この写真は河北省の子供たちと鳥取県の子供たちが一緒に卓球大会、これは友好都市の卓球大会、毎年出ている様子であるとか、吉林省の子供たちと一緒に舞台をやったり、イベントをやっている様子でございます。我々の友好交流を次の世代へ受け継いでいくことが私たちの役目ではないかと思えます。

ぜひ私たちが時代を変えていきたいと思えます。日中友好のかけ橋になりたいと思えます。

## ○王秀雲中日友好協会副会長

平井知事、ありがとうございました。

続いて、鐘勉四川省常務副省長にお願いしたいと思います。

## ○鐘勉四川省常務副省長

尊敬する李小林会長、省長の皆様、知事の皆様、友人の皆様、こんにちは。

四川省の人民政府、そして省長にかわりまして、フォーラムが盛大に開催されますことに対し、お祝い申し上げます。そして、中国人民対外友好協会、中日友好協会及び日本全国知事会の共催による友情と協力に感謝します。今回は中日両国地方政府の課題について意見交換ができたと思います。

四川省は中央アジアと東南アジアを結ぶ重要な接点と交通回廊に面しております。四川省の人口は9,000万人、西部の重要な商品市場と交通の要衝です。近年、中国で最も発展の早い、活力のある地域になり、全省総生産は4240億ドルに達しました。歳入は450億ドルです。昨年度の輸出入総額は646億ドル、実際の外資利用額は106億ドル、世界トップ500社の280社が同地に進出しております。10カ国の領事館が開かれ、51カ国に対して72時間以内のトランジットサービスが完備している都市です。そして、成都双流国際空港は昨年利用者が延べ3,400万人になり、北京、上海、広州に次ぐ4番目の航空ハブとなっております。知事、代表団の皆様、明日、四川省にお越しになるということで、熱烈に歓迎いたします。飛行機が着陸した瞬間から四川省の旅行が皆様に忘れがたい思い出となると思います。

日本は重要な先進国であり、そして隣国として四川省の対外開放と経済成長の重要なパートナーです。友好都市、提携経済協力、文化観光、防災・減災などの分野で、四川省と日本との連携が特にタイトで交流は盛んです。2013年、日本との輸出入貿易総額は40億ドルを超えています。進出日系企業は397社になっており、いずれも運営状況は良好です。日本各地と11組の友好都市を結び、広島と30年、山梨県とも29年たちました。今年の7月末と先週、広島県と本省でそれぞれ友好提携30周年記念イベントを盛大に行い、双方の首長が代表団を率いて参加したもので両省県の友好関係を新たなレベルに引き上げました。

四川省は日本各地とともに中日友好事業の発展のために努力していきたいと思います。

ここで4点、提案申します。

1、中日地方政府指導者の定期交流と協議の制度化。今開催する省長知事フォーラムはまさにそのような象徴的な試みです。フォーラムの継続開催、そして双方参加者の規模拡大など、フォーラムならではの協力を期待します。同時に、中日両国の地方首長の個別または合同訪問、特に友好都市同士の首長訪問を恒例化し、友好交流、協力事業の継続発展に役立てることを願います。

2、中日地方交流の拡大。国民の相互理解友情を増進、中日友好の民の基礎レベルにもっと両国の省県友好提携を目指すこと、全国知事会と知事の皆様のお力添えでより多くの日本の地方が四川省と友好提携してほしいと思います。

3、中日人的、文化的交流の強化。中日の文化交流を拡大し、両国の文化人、文化団体の頻繁な往来を促進するとか、教育の交流協力を強化し、両国教育機構のさらなる緊密な教育、研究協力を後押しすること。双方の文化協力を強化させ、人的往来の規模を拡大すること。青少年交流を拡大し、若者のやわらかい感受性で友情の種まきをし、中日友好事業に未来を担う力を育むことです。

4、経済貿易交流の促進。既に両国に強力に基盤ができておりますので、もっとその可能

性、潜在力を掘り起こしたいと思います。既存協力パターンと分野を強化した上で、省エネ・環境・新エネルギー・再生可能エネルギー、資源のリサイクル、高性能マテリアル、IT、スマート都市、健康管理など、先端成長産業における協力を促進します。

西部大開発の中で四川省に最もキョウチアイの都市に待たれます、より多くの日本の友人のご視察、日系企業の進出は大歓迎です。また、多くの日系企業が来られ、互恵関係を発展できればと期待します。

最後に、改めて明日、四川省への日本の友人の皆様を歓迎いたします。ありがとうございます。

### ○王秀雲中日友好協会副会長

四川省常務副省長、ありがとうございました。

次に、阿部守一知事様にご発言願いたいと思います。

### ○阿部守一長野県知事

尊敬する中国の友人の皆様、こんにちは。阿部守一でございます。

まず、長野県のご紹介をする前に、長野県と岐阜県の県境に位置しております御嶽山が先月9月の27日に噴火を起こしました。この災害に際しまして中国の皆さん方にも大変ご心配をいただき、多くのお見舞いや励ましのメッセージをいただきました。心よりこの場をお借りして感謝を申し上げます。

10月16日に捜索救助活動を終え、御嶽山の火山活動も現在は低下傾向が見られる状況となっています。現在は火山灰の噴出もなく、入山規制ラインも火口から4キロ圏内という落ち着いた状況となっております。昨日、私はこの噴火災害での早急な対応、復興支援のため、歓迎会に出席することができず、大変失礼をいたしました。しかしながら、尊敬する李小林会長、そして長い間、友好提携を続けてまいりました河北省の張慶偉省長ですね、各省長の皆様方にこの機会にどうしてもお会いしたいと思って参加をさせていただきました。

それでは、長野県につきまして紹介をさせていただきたいと思います。映像でご覧いただいておりますように長野県、大変美しい県であります。そして、また長寿日本一の県でございます。さまざまな観光資源が豊富でございますし、春、夏、秋、冬、四季折々の変化を楽しんでいただくことができる日本有数の観光県でございます。美しい水、美しい空、環境に恵まれた長野県は環境を大切に守ってきた県でもあります。環境面で皆様方と大いに提携することができるというふうに考えております。

長野県は日本の中央、ど真ん中に位置しております。東京、名古屋といった大都市から至近距離でございます。東京からは長野県の東の玄関口、リゾート地であります軽井沢まで新幹線に乗っていただければ1時間と少しで到着をする便利な場所にあります。

長野県の現在の総人口は約211万人です。冒頭申し上げましたように、長野県の寿命は男性も女性も日本で一番長い平均寿命でございます。したがって、世界の中でもトップクラスの長寿地域ということが言えるというふうに考えております。こうした面で健康長寿、そうした面で中国の皆様方とさまざまな協力をすることも可能だというふうに考えております。

これは昨年10月27日、ちょうど今日から1年前でございますが、石家荘市との友好提携締結30周年を記念して、河北省の張慶偉省長をお訪ねしたときの写真でございます。長野

県、これまでの30年にわたる先人たちの努力に基づく友好提携です。これをしっかりと踏まえて、顔の見える関係をこれからも継続してまいりたいと思います。

私は地域と地域の関係、国と国との関係の基本は全て人だというふうに考えております。そうした観点で本日は人材、人との観点で中国の皆様方とともに取り組めることについて4点ほどご紹介をいたします。

初めに、大学生のインターンシップでございます。今年、長野県では中国人民対外友好協会の皆様、そして中国対外友好合作服務中心の皆様のご協力をいただき、多くの大学生インターンシップを受け入れさせていただきました。ホテルを初めとするサービス産業におきまして、2012年から2014年の間にこれまで85名のインターンシップの大学生を受け入れております。本日、ご出席いただいている河北省からですね、そして陝西省からは今最多の41名の皆様方にお越しいただいております。私ども、このインターンシップをさらに拡大していきたいと考えております。来年度は100名程度の受け入れを行いたいというふうに考えています。参加された皆様方にも好評でございます。多くの皆さんに「おもてなし」をはじめ、さまざまなことを学んでいただけるというふうに考えております。

2番目が交換留学等による交流の拡大でございます。長野県では平成30年の開校を目指して新しい県立四年制大学の開学準備を行っております。1学年計240名の定員でございますが、全ての学生に海外プログラムの履修を義務付けようというふうに考えております。中国の大学との交換留学もぜひ積極的に取り組ませていただきたいというふうに考えております。それぞれの地域の大学と、これから人の交流について積極的にご提案をし、お願いをしていきたいというふうに考えております。

3番目が医療人材の育成でございます。長野県松本市にございます相澤病院、長野県の中で最もすぐれた民間病院でございます。高度医療に加えてリハビリテーション機能も充実した病院でございます。この病院では現在12名の中国出身者の方を雇用しております。そして、中国の医療関係者の皆様方のための研修事業に積極的に取り組んでいるところでございます。また、この相澤病院、リハビリテーション事業について、中国において事業を展開することを計画しております。ご覧いただいておりますのは、がん治療のための陽子線治療センターでございます。9月30日に竣工いたしました。体に負担の少ない放射線治療を行うことができる施設でございます。

4番目が環境に携わる人材の研修の受け入れでございます。長野県の環境保全研究所におきましては、これまで環境に携わる海外からの研修生を数多く受け入れております。これまでタイ、ブラジル、香港から研修生を受け入れております。写真にございますのは長野県の真ん中に位置しております諏訪湖の環境、左側がかつて汚れていた時代、右側が浄化された後の写真でございます。私ども下水道の整備と接続の推進、そして規制値に適合するような事業場の排水対策、さらには湖底の沈殿物を取り去る工事、こうしたことを重ねることによって諏訪湖の水質改善を進めてまいりました。昔のように泳げる諏訪湖を取り戻すためにいろいろ対策を積み重ねてきておきまして、こうした点について中国の皆様方にもさまざまな取り組みのノウハウをご提示することが可能でございます。

次に、観光についてでございます。長野県、そして三日月知事がいらつやいます滋賀県があります日本の中部・北陸地域におきましては日本の真ん中、東京、大阪の間に位置しております。地形が龍の形に似ていることから「昇龍道」と銘打ちまして、中国からの観光客の皆様

方をおもてなしの心でお待ちしております。地図の上にあります能登半島が龍の頭の形に似ているということで、「昇龍道」と名づけて おります。ぜひ日本の真ん中、さまざまな資源に恵まれたこの昇龍道地域にお越しいただきますことをお待ちしております。

そして長野県、顔の見える関係づくりという観点で教育旅行を積極的に進めております。青少年、子供たちの交流を通じて中国の皆様方とのさらなる交流、そして息の長い交流を進めていきたいと考えております。中国からの教育旅行、これまでの累計で7,618名の青少年の皆さんにお越しをいただいております。また、今日ご参加いただいております全ての省、全ての市から長野県にお越しをいただいているところでございます。この関係をさらに広げていきたいと思っています。

そして、私ども、中国の皆様方に長野県の魅力を知っていただくための施設を東京の銀座に新しく創らせていただきました。東京のまさに真ん中にある施設でございますが、長野県のさまざまな物産あるいは観光情報をここで発信をいたします。ここには中国出身の方2名の方に働いていただいております。従いまして、中国語でしっかりと対応をさせていただくことが可能でございます。

そして、私ども、中国の皆様方のオリンピックの開催に全面的にご協力をいたしたいというふうに考えております。これまでも中国の皆様方にスキー用具をお送りしたり、あるいは女子ジャンプ訓練隊の皆様方を私ども長野県で受け入れる等、中国の方々の冬季のウィンタースポーツについてさまざまなご協力をさせていただいております。先ほど、張慶偉省長から2022年のオリンピック招致のお話がありました。私ども1998年に冬季オリンピック、パラリンピックを開催した県として、競技大会運営のための人材育成を初めとしてさまざまな面で全面的なご支援を行うことが可能というふうに考えております。左下にあります写真は長野オリンピックのショートトラックで銀メダルをとられました中国の楊揚さんの写真であります。そして、長野冬季オリンピックの際、建設いたしました、上の写真が白馬村のジャンプ台、そして下の写真が長野市のスピードスケート会場のエムウェーブでございます。大会終了後もさまざまな方法で有効利用してきておりまして、ぜひご参考にしていただければありがたいと思っております。

こうした施設面でも、私どもお役に立つことができるというふうに思っております。どうか張省長を初め関係の皆様方、冬の長野県にぜひお越しいただきますことを心からお待ちいたしております。大歓迎をさせていただきたいと思っております。

最後の写真、これは世界的に有名なスノーモンキーでございます。地球で唯一野生の猿が天然の温泉に入るという場所でございます。世界から多くの旅行者が訪れる大変有名な観光スポットでございます。ぜひ省長、そして副省長の皆様方、私ども長野県にお越しをいただきまして、長野県のすばらしさをぜひご体験いただければというふうに思っております。

中国、そして各省の発展並びに皆様のご健勝を心からお祈り申し上げて、私のプレゼンとさせていただきます。

#### ○王秀雲中日友好協会副会長

長野県知事、ありがとうございました。

天津市副市長のプレゼンテーションをお願いしたいと思います。

#### ○曹小紅天津市副市長

尊敬する李小林会長、尊敬する中日両国の省長、知事の皆様、こんにちは。

本日、第二回中日省長知事フォーラムに参加できたことを大変うれしく思っております。そして、天津市長にかわりまして主催者に対し心より感謝の意を表し、ご列席の各界代表の皆様に対し心から感謝申します。

天津は中国の4つの直轄市の1つであり、面積1万1900平方キロ、人口約1,500万人を擁している中国最大の沿海開放都市でもあります。600年以上の歴史を有し、また中国近代工業の発祥の地として中国初の鉄道、郵便局、大学をつくるなど、中国初は100以上並び、中国の近代史に重要な位置を占めております。近年来、地理的優位性を生かし、東アジア、急成長するアジア太平洋経済圏を視野に向け、地域経済統合と経済グローバル化にかかわる我が国の重要な窓口になりました。2013年、GDPは1兆4,370億元を超え、前年より10.5%増加しております。2014年上半期1兆1,000億で10%アップし、全国でも上位に入っております。現在、天津濱海新区の開発開放、及び北京・天津・河北省の協同発展といった国家戦略実施と同時に天津FET申請整備が相まって得がたい歴史的チャンスが訪れ、前途が開けようとしています。

長年来、日本との経済貿易、港湾整備、文化教育、環境保全、コミュニティづくり、人材交流など幅広い分野において全面的に多次元の協力を行い、実り豊かな成果を収めました。

一つは、友好都市提携の枠組みの中で、1973年、周恩来総理のご配慮のもとで、天津市と神戸市による友好提携1号が生まれました。40年たっています今、四日市市、千葉市と友好都市関係を結び、北九州市、下関市、福岡市、函館市、大阪府、秋田県、茨城県などと友好交流・協力関係を築き、日本全国に及ぶ友好都市グレートゾーンとして、数々の交流と協力を果たしてきました。

2、立体的な交流ネットワーク整備。東アジア経済交流推進機構をプラットフォームに生かして、環境、観光、製造業及び港湾、物流などの優位性を十分生かし、日本のメンバー都市と実務的な協力を図っています。大阪のビジネスパートナー都市圏メンバーとして、大阪市などと積極的に経済活動を展開したほか、サマーダボスフォーラム開催を機に友好都市円卓会議を開き、日本の友好都市との関係を一層緊密化させました。

3、実務協力の拡大。循環型経済、省エネ・環境分野で北九州市との協力事業である子牙循環経済産業区が中日循環型都市協力プロジェクトに指定され、中日循環型経済モデル基地を申請中です。神戸市、四日市市、日中経済協会、茨城県などと相次いで「省エネ・環境保全協力に関する覚書」を調印し、環境フォーラムの共催、企業間のマッチングや人材育成など、多彩な形で交流を図り、四日市市との環境事業で日本の総務省と自治体国際化協会による共同表彰で第1回、総務大臣賞を受賞しました。

人材交流の面で、優秀なコミュニティ職員100人を神戸にコミュニティ視察に派遣し、地域コミュニティ管理のレベルアップにつなげました。2011年から、秋田県と交流事業を始め、毎年国際交流員を派遣しています。さらに、イオングループと協力実施する「アジア高校生エコリーダーフォーラム」は青少年交流のブランド事業になり、毎年開催する天津大会で選ばれた高校生たちは、日本や多くの国から来る学生たちと環境をテーマにした交流を行います。2013年からは天津中医薬大学は千葉大学、私の留学した千葉大学ですが、学生育成・科学研究など踏み込んだ交流と協力をスタートさせました。港湾、物流、文化、スポーツ、観光などでも神戸、千葉、北九州、下関や福岡などと良好な関係を保っております。

経済グローバル化と地域経済統合が加速する昨今、中日の重要な都市間協力を強化し、ウィン・ウインの関係をつくることは、中日地方交流の大勢になりつつあります。それに鑑みて幾つかの点で地方都市間協力が促進できればと思います。

1、地域経済連携の新たなスポットづくり。北京・天津・河北省の協同発展という戦略実施を機に日本の重要都市と地方政府レベルの協力メカニズムをつくり、両国の首都経済圏同士の資源共有と相互補完を図ります。中日各地方都市における産業メリットを統合し、ニーズとシーズがマッチングする場を構築すること、企業間シーズと資源共有、連携補完を構築し、共同開発、都市間連携、産業チェーンの構築のためしかるべき協力体制をつくり上げたいと思います。

2、環境保全などの重要分野における協力強化。天津子牙循環経済産業区を足がかりに中日循環経済モデル基地建設に力を入れ、日本から先進技術や理念、産業システムを積極的に導入します。官民協力、企業参与のできる環境システムを連携して構築し、資源節約型と環境に優しい生産・消費モデルを形成していきます。中日環境技術者と青少年間の情報面・人員交流を強化し、環境人材を共同で育成すること。さらに、教育、衛生など民生分野における協力を強化します。

3、観光と人的往来の促進。観光分野の協力を引き続き深化させ、観光キャンペーンを共同で実施し、双方の観光市場開拓に情報と便宜を供与すること。観光商品やルートの共同開発、クルーズ産業の発展、都市間交流の通航を推進します。人的往来のチャネルを構築し、中日双方の文化交流を促進すること。

4、教育・文化交流の推進。中日大学学長間の対話と交流を強化し、ハイレベルの人材共同育成モデルを模索します。孔子学院、天津日本人学校など教育機関の役割を生かし、学生交流・教師の相互訪問・学校間協力、教育資源共有などで交流の場を提供します。科学研究機関の協力を一層強化し、関連教育施策や法規を整備して、良好な政策環境づくりに努めること、先端技術の協力・強化を図ること、中日の地方教育文化特性を生かした協力のブランドづくりに取り組みます。

先ほどは各省長の紹介の中に天津の名前の出る数が大変少ないのが、ちょっと残念です。天津とご協力いただいている省、市が出席しておりませんが、ぜひ今日のフォーラムを通じてご在席の省、市とも協力を強化できればと願っております。また、フォーラムがあれば、天津市はご在席の皆さんとの関係が深まることを祈念して、そして皆さんのご紹介の中に天津のことがたくさん出ることを願っています。

最後に、皆さんとの中日の地縁関係と文化の共有・協力の展望は限りなく広いと思います。

天津ならではの地縁産業、資源の特性を十分生かし、仕組みの整備、分野の拡大、内容の充実化などで協力を実をとりたいと思います。皆で中日を協力で新たなパッケージを書き記そうではありませんか。ご清聴ありがとうございます。

#### ○王秀雲中日友好協会副会長

天津市副省長、ありがとうございました。

続きまして、山口県、村岡嗣政知事にご発言願います。

#### ○村岡嗣政山口県知事

本日は、李小林会長を初め地方政府の皆様方と意見交換できますことを大変うれしく思っております。お時間をいただきましたので山口県のことを紹介させていただきたいと思っております。

山口県は本州の、ごらんのように西の端に位置をしております。古くから東アジアの玄関口となっておりまゝ。

そして、下関港はその窓口として栄え、現在もフェリーが中国と山口をつないでおります。

各空港からのアクセスもすぐれておりまして、直行便があります福岡や広島、新幹線からは約30分、そして大阪からは約2時間半で到着をします。

山口には中国ゆかりの地が多くありまして、一つだけご紹介させていただきますと、日本に亡命していた中国革命の父と言われております孫文が革命援助のお礼に下関市の企業家にハスの実を贈られ、それが発芽したものが孫文蓮と名づけられて山口県の庭園で花を咲かせています。

山口県と友好協定を締結しております山東省との交流を紹介させていただきます。1979年、中日友好の船が来日した際に訪日団団長の中日友好協会、廖承志会長から提案を受けまして1982年に友好協定を締結して幅広い分野で交流を積み重ねております。

まず、経済交流についてであります。2001年以降、山東省と貿易商談会を開催しております。今年も先週、10月の22日から23日、済南市と青島市で開催をしました。商談件数は最高160件ありました。これまでも300社以上の日本企業、400社以上の中国企業が参加しており、両県省の企業の取引拡大の舞台となっております。今後もこうした機会を続けて、中国企業の誘致がさらに拡大するように取り組んでいきたいと思っております。

次に、環境保全交流でありますけれども、1992年からスタートさせております。技術者の交流やシンポジウム等を開催しております。山東省から105名の研修生を受け入れ、53人の技術者を派遣してまいりました。

次に、山口県の環境技術について紹介します。山口県は化学工業などの素材産業が多く立地をしております。1970年代、大気汚染問題が生じまして、それを受けて環境対策や省エネについて技術を高めてこの問題に対処しております。そのうちごみ焼却灰のセメント原料としての再資源化をご紹介します。県内のごみの焼却施設の焼却灰をセメントの原料にして使えるように処理を行って再資源化をします。それをセメントの会社に送ってセメントが製造される。そういうリサイクルフローが構築をされています。これは日本初の取り組みで山口方式と呼ばれております。これによりまして山口県のリサイクル率は大幅にアップをしまして、リサイクル率は、全国で2位となっております。こうした環境対策のノウハウや技術を中国で活用いただきたいと考えています。

山東省と山口県はさまざまな分野で交流を深めてまいりました。両県省の関係をさらに発展させていきたいと思っております。

次は、山口県と中国の交流促進に向けて、観光地あるいは農林水産物などにつきまして紹介をさせていただきます。中国の観光客の皆様は、日本の自然や温泉、食事を期待されると伺っております。山口県はその期待にぜひお答えをしたいと思っております。山口県は豊かな自然と美しい景観に恵まれておりまして、中国の観光客の皆様にはエメラルドグリーンの海が広がる角島一帯が人気となっております。

そして、また山口県には多くの史跡、文化遺産が残されておりまして、日本の歴史、文化も楽しむことができます。

そして、また山口県は日本有数の温泉県であります。中国の観光客の皆様ぜひ山口県の温泉を楽しんでいただきたいと考えています。

次に、山口県の食の紹介ですが、山口県は三方に海が開けております。海の幸、そして山の幸にも恵まれております。特に山口県はフグの取扱量日本一、フグは非常においしくて味覚の王様とも称されているごちそうであります。そして、また中国野菜のサイシンを母とします、ハナッコーリー、こういったものが山口県のオリジナル野菜としてあります。

そのほかにも梨やかまぼこなど自慢の食材がたくさんありますので、ぜひ皆様に味わっていただきたいと思っております。

それから、日本食とともに楽しんでいただきたいのが日本酒、酒であります。山口県のお酒は販売量が5年連続で増加をしており、日本でも注目が集まっています。また、ニューヨークやパリなど海外にも進出をして高い評価を得て、世界中で新たな日本酒のファンが急増中であり、中国ではワインブームと伺っています。日本酒は米のワイン、ライスワイン、山口県の酒は口当たりがよくワインのようであるという評価から人気もございまして、中国でも日本食の人気に伴いまして日本酒のファンが非常にふえていて伺っておりますので、日本酒の需要拡大を期待しています。

そして最後に、私の中国への思いについての話をさせていただきたいと思いますが、2008年5月12日に四川省で大地震がありました。日本はそこへ国際緊急援助隊を派遣したわけですが、私自身も国際消防救助隊の総括官として四川に派遣をされ、昼夜を問わずに活動しました。この右下に写っているのは李文亮さんとおっしゃり、一緒に中国で同じバスですと寝泊まりをして過ごすなど本当に苦勞をしました。李さんは今、長崎の総領事になられていますが、10日ほど前にこの震災以来6年ぶりに私は李さんに再会をして、当時大変苦勞した話をいろいろとさせていただきました。本当に大変暑い、35度を超える暑い中で水と本当に非常食だけで約1週間活動しましたが、中国の皆様方、大変温かく接していただきまして、本当に小さい子供たちがチョコレートを差し入れてくれたりして、大変援助があったわけであり、そして、また帰国した際には、大勢の中国の方、日本にいらっしゃる中国の方が大変な感謝の気持ちを述べていただきました。

そして、その2カ月後に日本で洞爺湖サミットがありました。その際に、胡錦濤国家主席に直接お呼びをいただきまして、私ども救助隊に対しまして直接謝意が示されました。この国家主席の右後ろに私いますけれども、大変感激をしたわけでございます。その際に胡錦濤主席から、私たち救助隊員の活動を日中両国国民の友情のあらわれであると述べていただきました。そういったことで、私自身も大変中国には特別な友情の思いを持っているわけであり、明日は四川のほうにも行かさせていただくことになっておりまして、この復興、そして経済発展が力強く進んでいる状況を見させていただくのを大変楽しみにしております。

こういったことで中国との交流、大変強い思いを持っておりますし、私自身も日中国交正常化の後に生まれた者として、さらに日本と中国の交流が深まるように力を尽くしてまいりたいというふうに考えております。どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

#### ○王秀雲中日友好協会副会長

山口県知事、ありがとうございました。

続きまして、夏耕山東省副省長にお願いします。

## ○夏耕山東省副省長

尊敬する李小林会長、山田啓二会長、中国両国の省長、知事の皆様、ご臨席の皆様、友人の皆様。

第二回中日省長知事フォーラムが盛大に行われ、開催のためにご努力いただいた中国人民対外友好協会と日本全国知事会に心から感謝いたします。

山東省は、中国東部沿海地域、河の下流に位置しており、中華思想の発生の地です。経済力の強い省でもあり全国のトップスリーに入ります。2013年の総生産高は9.6%、輸出入総額は8.8%の伸び率です。

青島市と下関市、山東省と山口県が友好提携しております。今日は友好県省である山口県村岡嗣政知事のお顔を拝見し、大変うれしく思います。ただ、四川省においてになるのがちょっと残念です。次回、ぜひ山東省にお越し下さい。

山東省と海外の友好交流において、創造となるもの、モデルとなるものの多くは、山口県と山東省が提携して生まれたものでございます。中国の同僚に特に紹介したいと思います。山口県は政治家の揺りかごです。安倍さんを含む7人の日本首相が山口生まれ。30回以上開催し、観客動員数100万人を超えた文化財相互展示展覧会、92年に始まった環境人材研修事業、そして2001年から14回開催された経済貿易会などの既に19組の翌年提携をし、全面的、多岐にわたる交流、協力の枠組みを進めています。

日本は山東省の大事な経済貿易協力パートナーでございます。これまで山東省で認可された日系企業は5,000社を超えております。日中経済協会、JETRO、三菱グループなど重要な経済組織、大企業とも戦略的な協力関係を結んでおります。去る9月に、日中経済協会の大型ミッションが山東省を訪れ、山東省と日本の間で「中日大気汚染総合防止モデル区」の建設覚書を調印しました。地方政府の協力は中日友好関係の重要な内容です。中日関係の健全な発展は地方交流と民間の友好に支えられる必要があり、山東省はそのための役割を果たしたいと思っておりますことで、山東省から数点提案をさせていただきます。

1、友好都市に軸足を置いて、多角な交流と協力を開かれた柔軟な姿勢で発展、拡大すること。山口県など、友好県と一緒に、既存協力基盤の上に熟した交流事業を実施すると、同時に新たな形態や内容を工夫、より実りあるものにしてきたいと思っております。同時に、ご出席いただいた皆様方代表する中日の政府と経験を分かち合い、山東省が加盟した東北アジア地方政府連合会、奈良東アジア地方政府会議など地方政府協力の国際プラットフォームを生かして協力を拡大したいと思います。

2、分野を広め、そのレベルアップ、協力のシフトやグレードアップを図ること。日本と韓国との距離が最も近く、経済貿易の協力が最も緊密である山東省はFTA交渉の大枠の中で「中日韓経済協力モデル区」建設を重視しています。互惠、ウィン・ウインの原則に基づき、さらに強かに発展し、レベルアップしたいと思います。韓国との関係とシフトの協力は既に提携されていることがございまして、日本ともそういうご協力をしたいと思います。

3は人的交流の拡大に力を入れ、中日地方政府協力の基礎を固めます。「国の交わりは民の相親しむに在り」という枕中故事があります。友好事業に尽力された先輩たちを尊重し、青少年交流が行われました。これから、山東省の中華文化発祥の地という特殊メリットを生かして、留学生の受け入れ、各種教育、修学旅行、文化、教育、観光などとして友情を深め民

意的な裏づけをしていきたいと思ひます。

最後に、今回のフォーラムの成功を祈念し、そして日本との交流の更なる発展を祈念して、私の挨拶とさせていただきます。

#### ○王秀雲中日友好協会副会長

山東省副省長、ありがとうございました。

三日月大造滋賀県知事にご発言願ひたいと思ひます。

#### ○三日月大造滋賀県知事

滋賀県知事の三日月大造です。このたびは第二回中日省長知事フォーラムにお招きいただいた上に、熱烈な歓迎をしていただき、尊敬する李小林会長を初め、皆様と同じ時間と空間を共有できることを心より感謝を申し上げます。

初めに、滋賀県の紹介を簡単にさせていただきます。滋賀県は日本の真ん中に位置いたしておりまして、人口は141万人、約1,450万人の水源地となっております日本最大の湖であります琵琶湖を抱え、環境保全に対する高い意識を持っております。

また、多くの企業、工場が集積をいたしまして、日本屈指のものづくり県として発展してまいりました。

滋賀県では「飲水思源」という中国のことわざをよく用いております。本日も井戸を掘っていただいた先人の苦勞を思いながら滋賀県における琵琶湖保全の取り組み、これらを生かした環境ビジネスや環境による地域交流についてご紹介申し上げます。

1977年5月、琵琶湖に悪臭を放つ赤褐色、赤いどす黒い色のプランクトンによる淡水赤潮が大発生いたしました。赤潮の発生の原因は、合成洗剤に含まれますリンが原因の一つでありました。

琵琶湖を守るための県民運動が起こりまして、1979年、合成洗剤の使用等を禁止する「滋賀県琵琶湖の富栄養化の防止に関する条例」、通称、私たちは琵琶湖条例と呼んでいますが、の制定につながりました。琵琶湖条例の施行日であります7月1日の「びわ湖の日」には、毎年、10万人以上の県民が参加する琵琶湖一斉清掃が県内各地で実施されております。県民を挙げての保全活動を継続実施いたしております。

滋賀県は、琵琶湖を守るため、企業に厳しい規制を課していますが、各企業も琵琶湖の保全への使命感を持ちながら、主体的な取り組みや技術開発を進めてまいりました。現在では、多くの企業が社会貢献活動として、森林や河川、そして琵琶湖の環境保全活動を進めています。また、そのことが企業の一つのブランドとして定着もしてまいりました。

この琵琶湖と共生する技術開発が基礎となりまして、水環境ビジネスでありますとか、省エネルギー・創エネルギー、エネルギーをつくる創エネルギー産業が滋賀県の企業の特徴ともなっております。

「21世紀は水の世紀」と言われる中、水環境ビジネスの分野において、ノウハウの蓄積がある本県企業の活躍の場が広がっております。

昨年度に友好提携30周年を迎えました湖南省では、滋賀県への技術研修員が30年間で約200名に上っております。また昨年度、平成25年度からは、水環境関連のプロジェクトを実施いたしております、環境問題対策についての交流が進みつつあります。

滋賀県では、今後も環境問題の解決を通じました地域交流を深めていながら、世界の水環境の課題解決につながる活動を展開してまいりたいと考えておりますし、私は知事就任後、ウォーターバレーをつくる構想を進めております。

毎年10月末に「びわ湖環境ビジネスメッセ」を開催いたしております。国内外から300を超える企業・団体が参加をし、先般も3日間で3万5,000人を超える方々がご来場いただくメッセを開催いたしました。中国からも湖南省からブースを出展していただきました。中国企業の皆様方にも経済交流、産業進出の場として、ぜひ今後とも大いにご活用をいただきたいと存じます。

また、日本、滋賀県の文化や環境問題への取り組みを肌で感じ、学んでいただけるよう、学校交流、農家民泊体験などの受け入れも進めております。若い世代の交流は、地域間の交流を促進するために重要です。ぜひとも中国の青少年の皆様にご訪問いただき、文化や生活、環境問題への取り組みに触れていただくとともに、日本の青少年と交流を持っていただきたいと考えております。

滋賀県には、琵琶湖を取り巻く四季折々の豊かな自然、世界遺産となっております比叡山延暦寺や国宝の彦根城など、数々の史跡があります。多くの見どころがあります。

このほかにも中国からの旅行者に人気の近江牛、牛肉ですね、近江牛を初め、滋賀ならではのおいしい料理や地酒、日本酒があります。免税店もふえており、約30店舗、食やショッピングも楽しんでいただけます。

滋賀県の隣には山田知事のいらっしゃる京都があり、関西国際空港や中部国際空港からもアクセスがよく、気軽に観光に訪れていただけます。

最後に、地域経済交流や観光交流、環境問題への対応など、草の根レベルでの交流を地方自治体が積み重ねていくことにより、日中両国の関係をさらに進めていくことが重要だと考えておりますので、今日をきっかけに大いにまた頑張ってもらいたいと考えております。

以上で発表を終わります。謝謝、ありがとうございました。

### ○王秀雲中日友好協会副会長

滋賀県知事、ありがとうございました。

引き続き、甘榮坤湖北省副省長にご発言願いたいと思います。

### ○甘榮坤湖北省副省長

尊敬する李小林会長、山田啓二会長。

湖北省は中部、長江の中流にあり面積は18万5,900平方キロ、人口6,100万人を擁します。アクセスの利便性が高く、中部最大の総合交通通信ハブとして古来9省の交通要衝と称され、そして公共基盤として11産業が売り上げ1,000億元を超え、技術と教育が進んでおります。122の大学、140万の在校生などを持っております。

湖北省はかつてない発展のチャンスに今直面しております。経済は連続10数年2桁成長を続けております。2013年、GDPは3,960億ドルに達し、全国第9位に立っております。海外貿易の輸出入総額は363.9億ドルになり、前年同期比13.8%としております。日本、その他の国の企業にとって投資のホットスポットになっております。今年の3四半期だけで13社新規進出しております。

日本とは伝統的に友好関係を結び、1979年に武漢市と大分市は湖北省最初の国際姉妹都市提携を締結しました。近年、ハイレベル交流が盛んで、楊松政治政商会議主席などがミッションを率いて訪日し、多くの日本の知事がミッションを開いて応援をさせていただきます。そして、今年の5月、大須賀淑郎静岡県副知事が80人余りを率いて湖北を訪問しております。民間交流活動のほうも盛んになっております。長崎県の毎年中学生代表団、太極拳代表団を相互に派遣しております。静岡県等の民間団体が音楽、生け花などの分野で民間との交流を初め、「関西ウイーク」「湖北 - 日本文化ウイーク」、極東日本経済協力商談会など大型活動を成功させました。2013年、日本の新規投資企業は11社になり、企業総数が454社になります。日本との対貿易総額は25億2,600万ドルになり、今年1月から9月までのそれは前年度比12.7%アップしております。協力の潜在力は大きいと思います。次のステップに向けて提案したいと思います。

一つは経済貿易の協力強化、日中両国の自由な経済貿易協力パートナーです、日本は貿易と投資の強力な相手先の一つです。経済補完性が強く、自動車、船舶、鉄鋼などで広く協力したいです。自動車など伝統優位性のある産業の協力のレベルアップと同時に金融、物流、新エネルギー、新素材、近代農業、環境保護、医療介護における産業協力を強化したいと思います。双方で緊密な協力し、友好関係構築してともに交流の場をつくり、より多くの企業がマッチングして協力を展開するよう、組織誘導することです。

2、人文協力の強化です。湖北省は豊かな自然に恵まれ、文化の奥が深いものがあります。日本の民衆に親しまれる三国志などの物語は湖北を舞台としております。湖北省の最重要送客マーケットの一つです。日本の環境は美しく名所旧跡が多いので著名な観光名所になっております。今年の1月から9月、湖北の訪日ツアーは延べ1.2万人以上に上る、昨年同期の5倍に当たります。湖北省と日本の観光協力の可能性は極めて大きいと思います。双方が利益ある誘致、プロモーション、旅行社タイアップなどを強化し、互いにデスティネーションと送客、派遣になり観光業の急成長を促すことと思っております。

それから、人文交流の強化、今年、湖北の紹介部門だけで日本からの14地方団体、そして延べ175人を迎えております。中日双方の地方政府や青少年などの人々の交流拡大、人的交流を奨励するよう思っております。新交流を基礎にし、文化、教育、バケーションの面で交流のパターンを創出し、内容を充実させ中日両国の発展に寄与していきたいと思っております。

最後に、知事の皆さんが湖北にお越しくくださいますように、視察、投資、訪問を歓迎します。中日省知事フォーラムのご成功を祈念します。皆様のますますのご発展とご健勝をお祈りします。ありがとうございました。

### ○王秀雲中日友好協会副会長

甘栄坤湖北省副省長、ありがとうございました。

続きまして、広島県副知事、中下善昭様をお願いしたいと思います。

### ○中下善昭広島県副知事

広島県副知事の中下でございます。中国と日本の友好と発展について意見交換する機会を与えていただき、大変光栄に思います。

広島県におきましては、本県と中国との交流についてお話をさせていただきたいと思っております。

広島県は1984年に四川省との間で友好提携を締結し、幅広い交流を続けてまいりました。1997年には、友好提携締結から10周年を記念し、友好のシンボルとして交流の拠点施設、広島・四川中日友好会館を成都市内に設置しました。この友好会館では、相互理解を進めるために日本語教室や日本料理交流会など、さまざまな交流イベントが開催されており、学生を中心に学習や交流の場として幅広く利用されております。今後も、広島県と四川省との友好交流の拠点として、積極的に活用していただきたいと考えております。

また、2011年には、「経済交流協定」を締結したところであり、この協定に基づく取り組みについては、後ほど説明させていただきたいと思っております。

さらに、今年がちょうど友好提携締結30周年にあたることから、7月には四川省の魏宏省長を広島県にお迎えし、また、本県の湯崎知事が四川省を訪問したところであり、今後も、交流促進を図るため、「経済交流協定」に基づく具体的な取り組みなどを進めていくことといたしております。

2011年の四川省との「経済交流協定」は、投資・貿易分野、県内企業の四川省進出の支援窓口設置への四川省側の支援、環境保護分野、観光産業分野、人材育成、知的財産権の保護の6分野について、相互の交流と協力をより強化することについて合意したものであります。「経済交流協定」に基づく取り組みとして、代表的なものをご紹介します。

まず、投資・貿易分野の交流強化としては、食品分野の販路拡大を目指し、現地最大の日系スーパーである伊藤洋華堂と連携して、本年2月、県内企業13社が参加して、物産展を開催いたしました。11月にも開催する予定であり、広島産品の知名度アップに努めることといたしております。

また、県内企業の四川省進出の支援窓口としては、2012年5月に、広島・四川中日友好会館内に経済交流事務所を設置いたしました。日本語が堪能な現地スタッフ2名が常駐し、企業のリクエストに対応をいたしております。

四川省以外にも、上海及び香港において、広島県産品の理解を深め、より多くの方に広島県産品のファンになっていただくことを狙いとして、経済交流を中心とした取り組みを行っております。

上海においては、とりわけ、日本食への関心が高いことから、昨年11月に開催された食品見本市FHCに県内企業13社が出展し、多数の企業と商談の機会を持ったところであり、今年も参加の予定で準備を進めております。

また、香港におきましては、昨年12月に、現地の日系スーパーであるイオンと連携して、近隣の県とともに、「瀬戸内フェア」を開催し、農水産品や加工食品の販売を行いました。特に、冷凍カキなど、広島県産品の品質は高く評価されたところであり、今後も継続的に取り組みを行い、中国での定着化を図りたいと考えております。

次に、広島の代表的な観光資源を紹介させていただきます。広島には二つの世界文化遺産があります。

一つは宮島の厳島神社であり、もう一つは原爆ドームでございます。宮島の厳島神社は、海の中に浮かぶように立つ大鳥居が有名であり、宮島から眺める景色は、日本三景の一つに数えられるほど美しいものです。

原爆ドームは、多くの方がご存じかと思いますが、広島市に投下された原子爆弾の惨禍を今に伝える被曝建造物でございます。

また、瀬戸内海に面す広島は魚介類の宝庫でございます。特にカキは生産量日本一を誇り、ぷりぷりの身と、濃厚でクリーミーな味わいは、グルメな中国の皆様にもご満足いただけると思います。

広島風お好み焼きは、薄く伸ばした生地にキャベツ、もやし、豚肉やそばなどを重ねて焼き上げるのが特徴で、県内に約2,000店舗あり、どこも親しみやすい雰囲気となっております。

ぜひ、多くの方に広島県を訪れていただき、実際に見て触れて広島県のよさを実感していただきたいと考えております。

最後に、広島県と中国との交流環境について、紹介させていただきます。

まず、航空路線については、広島空港と大連とを約2時間で結び、大連を経由した北京とを約4時間で結ぶ路線には、毎週火曜日・木曜日を除く週5便が運航しています。また、広島空港と上海とを約1時間半で結び、上海経由で成都とを約6時間で結ぶ路線には、毎日週7便が運航し、ビジネス利用などのための移動手段として定着をいたしております。

その一方、2013年における中国から広島への観光客数は、約6万2,000人と、国・地域別では、第4位という状況にあり、今後は、より多くの観光客に広島県を訪れていただきたいと考えております。

ご清聴ありがとうございました。

#### ○王秀雲中日友好協会副会長

副知事ありがとうございました。

第二回日中知事省長フォーラムはこれで終了いたします。ご苦労さまでした。

## 2. 意見交換

### ○王秀雲中日友好協会副会長

中日の地方同士の経済協力、環境保護協力、観光という3つの議題をめぐるまして、自由ディスカッションをしていただきます。このセッションが李小林会長と山田会長の共同進行でお願いいたします。

### ○李小林中国人民对外友好協会会長

省長の皆さん、知事の皆様、本日、午後、先ほどの参加者の皆様がそれぞれ素晴らしいプレゼンテーションをしてくださいました。王秀雲副会長もお話しされました3つの議題があります。まずは、経済貿易の協力、そして、環境保護、3番目は観光であります。経済貿易協力につきまして、私は中日間には非常に幅広い協力の将来性があると思っております。具体的なプロジェクトも数多くありまして、協力の余地が大変大きいと思います。

それでは、まず、天津市の副市長、曹小紅女史、副市長様より具体的なプロジェクトからのお話いただきます。3分以内でお話いただけますか。お願いいたします。

### ○曹小紅天津市副市長

少しだけ、天津も簡単に先ほどご紹介を申し上げたとおりです。天津から幾つかの分野で協力、強化を願っております。先ほど申し上げたように、まず、北京、天津、環境発展というのをよりどころに産業アライアンスに依拠して企業競争力の上昇を図っていきます。資源マーケットの中で互惠関係を構築できればと思います。北京、天津・・・発展は国是のこととなっているので、今回のフォーラム友好都市間の資源などを生かして、政府間の交流プラットフォームをつくり上げたい。それによって産業アライアンスを形成するという。皆さんご紹介にもありましたが、日本の一番ハイテク、そして企業のマネジメント、制度的な整備など、産業アライアンスの構築によって協調、コーディネーター機構をつくれたらと思います。地域共同市場の政策づくりのための効率、発展の保証をしたいと思います。

それから、もう一つは、アジア循環経済産業圏がありますが、低炭素環境循環経済分野での実質的な協力ができないかと考えております。北九州市と協力する形で人口形成区の整備を進め、これが都市計画となっていくようなこととしていきたいと思っております。定期的な技術紹介などが必要です。

それともう一つ、天津は北京に申請しているところですが、FTZの整備を進めたいと思っております。貿易の自由化、円滑化レベルの向上によって中小企業を含む日系企業の進出の環境づくりをしたいと思っております。情報、資金などの共有を図りたいと思っております。私としては教育、文化、スポーツ、医療衛生を担当します。先ほど紹介した中でも、観光、文化、教育、医療衛生、スポーツ、特に青少年分野の内容に触れたと思います。こういった分野でもぜひ協力を強化し、特に今回のお越しくくださった知事のご紹介の内容に即して接点を見つけていきたいと思っております。大学の協力とか、私も大学の学長をしたことがあります。大学の協力について、特に中国の大学教育、普通教育、学齢前教育、職後教育、そして生涯教育など新たに直面した問題、そういった教育における経験、参考にしたいと思っております。子供たちはそういった環境により、大きく成長できるように願っています。中日地方の経済貿易協力発展のための環境づくり

になると思います。

私には短目にご要望がありましたので、ここで重ねてちょっと寂しいと先ほど申し上げました。ぜひ天津に。知事の皆様の紹介の中に天津の名前が出るチャンスがとても少ないです。もちろん私の責任ですが、これから頑張ります。またよろしく願います。

### ○山田啓二全国知事会会長(京都府知事)

ありがとうございます。

経済交流に関しましては、本当に幅が広いと思いますので、かなり難しい点はあるかと思いますが、日本側からも具体的な提案を行わせていただきたいと思っております。

最初に、新潟県の泉田知事のほうから提案をお願いいたします。

### ○泉田裕彦新潟県知事

天津曹副市長さんの後に発言する機会をいただき、大変光栄に思います。

先ほど時間がなくて十分に説明できなかったのですが、現在、新潟県でさまざまな環境ビジネスの取り組みを進めています。スライドに出ますかね、一つ、この下の真ん中のところをごらんいただきたいのですが、これはバイオマス発電機という施設で、これは下水道とか、それから、ごみから発生するガスで発電ができる仕組みということになります。ただ、発電機自身はあるのですが、これは、プラス自治体と共同してどういうふうにごみから電気をつくるのかと、制度、仕組みを準備しないとうまく回らないということになります。したがって、関心のある都市とそのビジネスを実際に立ち上げるということができれば、恐らく世界の中でも先進的なものとなっていこうというふうに考えております。これは廃棄物の廃棄というのも、ビジネスではなくて、やはり循環可能な社会をどうつくっていくのか、行政とそれから事業者と住民、これもうまくコーディネートしないとビジネスとして大きくなっていかないという部分がありますので、例えば全国知事会と中日友好協会で共通事務局をつくっていただき、関心のあるところ同士をマッチングをさせていただくということがあれば、ぜひ天津と協力をして新しくビジネスをできないかなというふうに思っております。

それから、もう一つ、前のページ出ますか。今、新潟県では太陽光発電のほかに幾つか安定的な発電をする再生型のエネルギーを取り組みを進めています。一つは潮流発電っていうのをやっています。この中にはないのですが、潮流発電というのは日本海を流れる対馬暖流の安定的に流れている海流で発電をしようという取り組みです。それから、右側の上にあるものはバイナリー地熱発電、ということからか今まで地熱発電は水蒸気が発生しているところに超巨大な発電機をつくるっていうパターンしかなかったんですが、アンモニアダストを間に入れることによって、普通の温泉からエネルギーを取り出して発電をするということです。ここには企業による研究会というのも組織をしていますので、まさに使ってくれるところと、それから部品を供給する人、組み立てる人、それから大学、これが一緒になってプロジェクトを進めているという形に持っています。例えば新潟県には長岡技術科学大学という大学がありまして、これは北東アジア地域とも協力関係を多く持っている大学があります。こういったところも含めて、産官学のプラットフォームがあれば未来のマーケット創造、我々自治体地方政府がマーケットをつくり出し、学会が知恵を入れ、そして産業界がそこで成功するというモデルが可能なのではないかなと。関心ある分野ごとに、こういう夢のあることをつくらせていただくと将来、それも近い将来大きなビジネスと

してつながるのではないかと提案させていただきたいと思います。以上です。

### ○李小林中国人民对外友好協会会長

日本の数多くの分野におきまして、協力を進めることができると思います。すばらしいお話、ありがとうございます。湖北省が私の故郷であります。湖北省には非常に深い思い入れがございます。先ほど甘副省长のご発言では、湖北省と日本との貿易は近年非常に安定的に伸びてきているとおっしゃいました。特にそのサービス業とハイテク分野におきましてトレンドが顕著であります。もっと具体的にお話いただけますでしょうか、こういった分野におけるプロジェクトのご紹介をお願いします。

### ○甘栄坤湖北省副省长

経済貿易協力は貴重な協力分野であります。中国の沿岸地域から中西部地域に推進しております。湖北省は中国の中心にありますので、1,000キロの圧倒的な地域をカバーしてまいります。湖北省は立地上のメリットがあります。中国は、マーケット、経済のシンクタンクを推進しておりますので、資源が重要な役割を持ちます。物流が相対的に低目で、マーケットの潜在力は大きいので、日本の知事の皆さんにもっと多くの企業に中国に目を向けるように、そして、湖北省に目を向けるようにしていただきたいと思います。それまで中国で加工貿易に展開する沿海側の企業が中国に湖北に移転し発展したことができればと思います。一つは湖北省が今そもそもゲートウェーづくりを進めています。大きなポイントであります、そして通関整備を進めています。全国ハイテク技術開発のトップ3の一つになっています。そして、こういった面でも日本の企業と深く協力し、ハイテク企業を導入したいし、そして近代物流、サービス業が湖北に誘致できればと思います。

3点目、いかに日本企業とのコミュニケーションをよりスムーズにするかということについてこれから一連の措置をとっていきます。今年に締結したより多くのプラットホームづくり、そして最終的に日本の企業がプロジェクトのマッチングをするということに落ちついていかないといけません。湖北省は日系企業に対するプラットホームをよりよくしていきたいと思います。重ねて知事の皆様、企業等を率いて湖北省にお越しくださいますように。ありがとうございました。

### ○山田啓二全国知事会会長(京都府知事)

ありがとうございました。

確かにどうしても日本と中国の関係からいきますと、沿海部との交流が今までは中心になってきております。それだけに今の中国の驚異的な経済の発展の中で、中央部や内陸部の関係も我々にとりましても、大変大きな未来に向かっての機会なのではないかと思っております、湖北省の皆様とよりコミュニケーションをとって、さらに関係が深まるように努力をしていきたいと考えております。

それでは、私どものほうから今度は広島県の中下副知事、どうぞよろしく願いいたします。

### ○中下善昭広島県副知事

広島県では、先ほどご説明を申し上げましたけれども、四川省との間で経済交流を締結をいたしております。その中で強かに推進をしていくということで、県内の支援窓口、これを設置い

たしました。それと同時に、2012年に四川経済交流事務所、四川省の中に四川省についての情報の窓口を設置いたしました。これは定期的にミーティングをやりながら事務をしっかり進めていくという体制をとっています。その取り組みによりまして、現在、広島県内の企業7社が四川省に進出をいたしております。現在四川省で開催されております西部国際見本市にも県内企業が出展するなど、企業進出に向けた積極的なアプローチを試みている最中でございます。この窓口をきちっとシステム的に稼働しながら強力に進めてまいりたいと考えております。

もう一つは、観光でございますけれども、大型クルーズを何としてもやりたいということでプロジェクトを組みました。来年度に5件広島に来ていただくようになりました。最大クラスの船で16万トン、4,000人を超える乗客になります。上海と広島を結ぶクルーズが予定されるなど、広島県と中国との交流関係をさらに充実をいたしております。当初これは港を10万トクラスで改築をしようということでしたけれども、よく海の話をしなると、もう16万トン、22万トンという非常に大きな大型化が進んでいるということでございまして、広島県におきましては22万トン級が着岸できる港に改築をいたしておりますので、どうぞ積極的に使っていただければと思っております。これが来年の3月に完成いたします。こういった試みで交流を推進してまいりたいと考えています。以上でございます。

#### ○李小林中国人民对外友好協会会長

積極的な広島の中下副知事が四川省のお話の中に名前がよく出てきましたので、四川省の省長、お話、どうぞ。

#### ○魏宏四川省省長

それでは四川と日本の観光協力について。

#### ○李小林中国人民对外友好協会会長

これは次のテーマですので、経済貿易はいかがですか。

#### ○鐘勉四川省常務副省長

経済貿易協力に関しては、近年、四川省と広島との間で貿易の面で持続的に成長しております。昨年以降40億ドル程度に達しております。投資に関して四川省に進出している日本企業に297社に上ります。トヨタ自動車、富士通などグローバルな日本企業40社が進出しております。運営も良好です。次のステップとして本当に貿易投資を強化するために、関係企業の地方政府に成都で開催する西部博覧会のプラットフォームを生かして、双方企業間の理解を深めそういうプラットフォームをつくることによって中小企業の協力を後押しすることになっています。今年フランスがゲストになって、そして政府各省とフランス地方政府、中小企業との連携のために大きな役割を発揮しています。ぜひ既にある貿易投資協力を踏まえて、これから西部の国際博覧会のプラットフォームを活用いただきたいと思います。より多くの知事の皆さんのご参加お待ちしております。

## ○山田啓二全国知事会会長(京都府知事)

ありがとうございます。

博覧会も非常に大きなこれからの交流の機会になるかもしれませんが、やはり一番大切なアクセスの問題があります。どういう形でアクセスをつくっていくのかということは、これからの経済、貿易にとって大きな論点だと思います。この点でより頑張ってくださいました平井鳥取県知事に再度お願いいたします。

## ○平井伸治鳥取県知事

私たちは非常に近い関係にあります。ですから、航空路をつくるとか、そうしたことを地域の行政レベルでも協力をして展開をしていくことが必要ではないかなというふうに思います。東アジアにネットワークを張る。国境はもうなくなります。経済部の第2位の大国である中国と、それから、第3位の大国である日本、これがお互いに動脈を結ばなければ生きていけないわけでございまして、そういうことを我々地方政府レベルも展開をしていく必要があると思います。現実にも鳥取県の企業は河北省でいいますとゴムの工場が行っておりますし、また、建設用機械の工場が唐山市に出しております。また、保定市には電気の関係の会社が出ています。こういうように交流があります。

また、先程来、曹さんが名前が出ないと言っていて、あえて申し上げますが、天津には工業用ロボットの会社、鳥取のサンライズ工業というところが合弁会社で行いますけれども、やはり天津に出て、山東省もそうでありまして、各地方に出ているんですね。これが私たちの経済に必要になります。それに必要な動脈を通すということに注力をすべきではないかと思えます。

あと、もう一つ、安全を保障する、これはこれまでの2年間の冬の時代、台風が私たちの友好交流に吹き荒れた時代に起きたことであります。現実にも残念ながら青島のほうに出た工場が破壊をされてしまうということが鳥取県の企業にもありました。しかし、それはいつと時のことであって、人間としての信頼関係に基づき、今工場は再開をしているわけでございますが、こうしたときに、やはり地方政府レベルの信頼関係でサポートをすることも考えなければならないのではないかと思います。日本の企業が今中国に進出する際に懸念を持つのは、そうした安全に対する保障だとか、これからの労働政策、人件費の動向などでございまして、これにはやはり中国側でも率直に関心を持っていただく必要があるではないかと思えます。私たちはともに、例えばアニメや漫画などの新しいソフトカルチャーでも提携できないかと、さつき張河北省長からのお話があったけれども、いろんな可能性がこれからあると思います。経済大国の第2位と第3位が手を結ぶ、それを具体的に私たちがやるべきであります。

## ○李小林中国人民对外友好協会会長

ありがとうございます。

経済貿易のテーマでしたけれども、省長及び知事の皆様がいずれも数多くのお話しされた方が、内容がございまして、時間の制約もありますので、第2の議題に入ります。

中国側のほうがより関心を持っていると思います。環境保護です。環境保全につきまして、日本の皆さんもよくご存じですが、北京に住んでいる市民ならば今一番の関心事が空気、大気です。出かけるともう外はPM2.5の危険があります。しかし、日本に行きますと、空港をおり立つともう真っ青な青空、きれいな空気が待っています。非常にすばらしい環境に恵まれ

ているのです。ですから、本日、河北省の省長、張慶偉先生もご在席ですので、私たちの汚染が主に河北から来ているものと我々は思っています。張省長、ぜひ、どうすれば日本と提携をしてこの大気対策をしっかりと除去していくことができるのか。

### ○張慶偉河北省省長

喜んでお話しします。

環境保護の協力効果は将来的に地域協力における重点になり、そして、重要なインセンティブにもなるでしょう。

皆さんもご承知のとおり、産業革命以来、巨大な物質的な富をつつたと同時に大変重い環境の代価も払わされています。

生態が破壊され、環境が汚染されています。河北省は工業の大きな省です。工業の増加額は中国の31省の中でも6位に並んでいます。重化学工業が大きな割合を占めていますため、先に発展し後から防除するという道から脱却する必要があります。ちよつと近道がないようすけれど、先ほどのセッションで発言する中、日本から見えた知事の皆さんが環境がらみの生態関係のお話をされたと思います。例えば植樹とか、あるいは自然保護に手を加えるような程度にとどまっていますが、河北省の生態系建設において大きな成果を上げています。

北京市の天津市の2つの世界の特別大型都市の水源地になっています。河北省は北京2,000万人、天津1,500万人に対し、90%以上の水を提供しています。2つの大都市の水使用を保証しております。それから、主な黄砂の発生源でもあります蒙古高原がありまして、モンゴル高原、皆さんの発言に植樹の話がありました。

つまり、嵐はなくなりました。あるいは、嵐によって形成される昔反発の強かったものだったのですけれど、河北省の北部、張家口あたり、承德とか、そこに食いとめました。

100本以上の植林を実施しました。そこに立てば河北省は森林が、森が大きく広がっていますが、そこから過ぎると砂漠になっています。ですから、砂を食いとめ風を食いとめております。振り返ってみれば、3,000メートル以下の大気を見たときに、大気汚染にさらされています。昨年、李克強首相が初めて大気汚染にチャレンジを宣言するという決意、アクションをとっております。

昨年、中央政府が大気10カ条というのを打ち出しておりますが、それは退治基準となっております。昨年、私たちも政府が中心となって大気汚染防除の取り組みを始めました。3,000メートル以下、PM2.5を中心とする汚染物質を除去する可能性があると思います。我々のアクションにもなってきます。間もなく中央政府から水質、土壌10カ条、次々と打ち出しますが、大気、水、土壌の10カ条はそれぞれ打ち出されます。

昨年来、河北省は1年間かけてPM2.5の濃度を12%下げしております。これは環境部門が対策した結果でもあります。PM10については、11.6%削減しております。ただ、それだけ環境整備のタスクは大変厳しいもので、今序の口でしかないと思います。測定した結果、今水の防除も進めております。河川防除もやっております。この2つだけでおよそ4兆元人民元が投下されなければなりません。

今回の省長知事フォーラムの交流によって環境に対して4つの協力を願っております。一つは地方立法の環境保護に対する重要さは大きいと思います。今そういう研究を進めておりますし、制定にも取りかかっております。方々に影響する生態系環境の保護建設を進めること、もう

一つは技術開発での協力、先ほど皆さんも繰り返し指摘された大気汚染の防除、そして都市汚水退治についても、そして次のステップとして土壌についてもそうですが、さらに環境技術を導入してそういう汚染除去、観測、そして低炭素技術の開発につなげていかなければなりません。こういった分野ではまだまだ協力をする可能性が大きいと思います。この協力は日本だけでなく、ドイツとも急ピッチに進められております。そして、中央政府も提唱しておりますが、ドイツの環境分野での、そして生態系環境の協力が進んでおります。

それから、環境産業の開発について、さっきのお話とも関連しますが、新しい成長スポットとしてこんなに投入するのに対し、産業の面ではもっと協力を立ち上げないといけないと思います。協力のエリアも大きいと思います。河北省ではかつてのキャッチフレーズですけれど、これは外交部関係部門の支援も得ております。つまり唐山市にインダストリアルパークを整備する予定だったのです。産業発展の土台としてそういうパークが必要だと思います。つまり、そこに入居する企業を支援するという、唐家璇会長はずっと推進してくださっています。そして、カウンターパートの経団連ですね、いろいろと枠組みは、骨組みができたんです。産業協力でもっとステップを早めたいと思います。しかし、さまざまな理由でそれが遅れてきました。他国との協力は滞っていません。最近ドイツと建築分野でも建築省エネにおいて河北省の保定市ですけど、例えば窓、ドアに関してグローバルな最大エコ建材をつくっています。青年派遣は歓迎します。それから、水の汚染、大気の大気産業廃棄物の排出に関する製品の設計などでも協力を進めておりますので、ぜひ産業協力においてもっとスピードアップ、あるいはプラットホーム構築を早めたいと思います。循環工業パークの整備をしっかりしていきたいと思います。

4つ目の協力として、長目にこの協力を考えること、環境保護、大気汚染の防止がいろいろな側面とも関連します。ですから、キャパシティービルディングについても協力できればと思います。例えば環境基準の制定、あるいは人材育成、教育、そしてパブリックの関与なども含めて協力を図りたいと思います。私たちににとっては大きなチャレンジであると同時にチャンスでもあります。こういう状態でなければ重点とすることはなかったのですが、ぜひ協力する中でお互いに行動を起こすこと、我々が持って立つ地球というふるさとを大事にし、保護したいと思います。そして、政府がこういう場をつくることによって、民間の経団連にしても友好協会にしてもその推進をいただきながら、より多くの企業が参加していけるようにしたい。ここに座るだけで省長にしても知事だけでは不十分だから、ぜひ例えば長野県の友好組織の役割を發揮させたいと思います。とりあえず以上です。ありがとうございました。

#### ○山田啓二全国知事会会長(京都府知事)

ありがとうございます。

確かにこの大気汚染の問題は日本でも大きな話題になっております。幸いなことに中国ではここ数日PM2.5は基準値以下ということで、マスクをする必要はないのですが、ただ、日本もそれについて大きなことを言っていられない立場でありまして、1960年代から70年代にかけて深刻な大気汚染を経験し、その中で多くの病気が発生するという非常に苛酷な経験をいたしました。風は西から東へ吹いておりますので、中国のほうでは影響は出なかったのかもしれませんが、そうしたことを克復して、先ほどお話がありましたように、きれいな空を取り戻したわけでありまして、空には塀はないわけですので、一衣帯水の関係である我々は共同して取り組まなければならないと考えておりまして、地方交流の中でも一番実のある交流ができるのではないかと考えて

おります。その点について、山口県の村岡知事からご発言願います。

### ○村岡嗣政山口県知事

今、会長のお話があったように、日本におきましても非常に高度成長期に環境問題が多くなつたわけでありまして。山口県は瀬戸内海側に非常に工業が集中をしております。しかも、大きな製造業、特に化学工業を初めとします素材産業が多く立地をしておりますことから、1970年代まで大気汚染問題に非常に苦しんだ歴史がございます。そういうところに対しまして産業界、そして行政が積極的に環境問題に取り組んでまいりました。具体的には国の公害対策とあわせまして、条例で県独自の規制も行いまして、大変著しい大気汚染、それから、水質汚濁もそういったものを未然に防いでおります。そうした経験もありまして、山口県の企業では、硫黄酸化物ですとか窒素酸化物を初めとしますさまざまな大気汚染、それから有機物や重金属などによりまして水質汚濁を防止するすぐれた対策の技術を有しています。今申し上げましたとおり、ぜひ産業協力をさらにスピードアップをしていく必要があると思っています。こうした技術をぜひ中国でも活用していただきたいと思ひます。

そしてまた、山口県の企業、低炭素社会、循環型社会、こういったことへの関心、意識も非常に高いものがございます。山口県の環境産業が早くから省エネ、あるいは廃棄物の再利用、再資源化に取り組む中で確立をした高い技術がございます。地場の企業の中にも独自の商品や技術を持っている企業も多くあり、裾野は広くあるわけでございます。先ほどご説明しました全県的なごみの焼却灰のセメント原料化ですとか、あるいは森林バイオマスの活用など、先進県としても取り組みを進めてきたものであります。

20年以上にわたりまして山東省とは交流を続けております。その中でも環境対策については特に重視をしております。派遣研修等も行ってきたところがございます。中国におきまして山口県の行政とか企業がこれまで培ってきた環境対策、そのノウハウを、技術をぜひとも活用していただきたいと考えておるところでございます。ご指摘のあったとおり、産業協力のスピードアップをして、そしてプラットホーム構築をしていくということもとても重要だと思っておりますので、山口県としても積極的に取り組んでいきたいと思ひます。以上です。

### ○李小林中国人民対外友好協会会長

日本の皆さんはご存じと思いますが、中国は13億の人口がございます。一人一人尊厳のある暮らしができるには非常に資源とエネルギーが必要なのです。陝西省も非常に経済のスピードが速く発展してきている省であります。豊富な資源もありますし、悠久な歴史ももちろんありますが、と同時に資源にも恵まれている省であります。

それでは、続きまして、陝西省の姜勤儉先生より、資源の保障における日本との協力についてお話頂戴したいと思います。

### ○姜勤儉陝西省省長

陝西省は資源に強い省です。昨年度、天然ガスの埋蔵量は中国最大のそうしたガス田を持ってあります。石炭も5億トンになっています。中国はエネルギーに影響して発展するその構図は完全に食いとめられていないということが見てとれます。それを前提にしていかに環境を有効に保護するか、大変厳しい選択です。そして、やらざるを得ないことでもあります。

陝西省は先ほどお昼にご紹介しましたが、今に伝えられた話、実践の中で生態系や環境の重要性は言うまでもないのですが、つまりトキ、トキは農業の化学農薬散布などが行われ、世界的にトキがいない、もう絶滅と言われました。中国の結晶のシンボル、日本でも聖鳥と言われます。大変悲しいことでした。上海がトキの舞曲を披露していますが、美しいストーリーは書き直されています。87年に秦嶺で7羽のトキを発見しました。

もちろん、きっと秦嶺の奥深いところにもっと発見されないトキもあったと思います。7羽発見されたトキを有効的に保護したわけです。つまり地域全体を自然保護区に指定し、農薬散布、化学肥料散布を禁止したわけです。今トキは2,000羽以上にふえています。日本には中国の首脳から数羽日本に贈られて、日本でも380羽にふえました。韓国のパク・クネ大統領がもっと要請しております。トキは韓国にも渡りました。浙江省でも繁殖されています。よりいいことは、農民の保護意識が生まれました。今までではならないといったのに対し、今は放鳥しています。北部に2回放鳥しております。昨年放鳥したときには私もテープカットしました。36羽放鳥した結果、今野生の第2世代が生まれています。地元の農民はトキが成長するところは生態が素晴らしいと考えるようになり、その穀物、野菜なども高価格で売れるんです。ですから、農民も自覚的にその生態系を保護することに力を入れています。生態系環境が我々自身だけでなく経済発展にとっても持続可能かどうかがかかっています。

陝西省はエネルギーが多く、そして中国のより重要な生態保護地域に指定されています。秦嶺が陝西省にあります。北京市に70%の水を陝西省が水を提供しています。清潔な状態で北京に天津に河北に送られるように保証します。そのためには生態系の保護が不可欠、その水源地はまさにトキが成長するところです。もちろんその範囲を広げて陝西省28の県がカバーされる地域です。28の県の全てのところでコミッショリー、生態系環境が十分図られるという厳しいタスクも負っています。今協力の面において、例えば污水場の処理、污水場の協力、それからトウモロコシの茎などの技術、ごみ発電、都市ごみの処理に対しても、でもダイオキシンのためにごみ処理場で紛争があったのですが、今熟した技術があると思いますので、そういった協力を図りたいと思います。

秦嶺の保護、長江の水の保護につながっています。雅口江は長江の一番大きな支流になっています。黄河、渭河など陝西省の域内に600キロの長さを持っています。黄河の大きな支流になっています。黄河、揚子江の水源地を保護することは陝西省の大きなタスクでもあります。例えば陝西省が皆様もご承知のとおり、腰に太鼓ぶら下げて踊る随分ほこりっぽいところです。流砂が大きい、黄河の水が黄色なもののためです。陝西省で耕地をして草地、森林に戻しておりますので、70%の砂がとどまるようになりました。今ごらんになったら高度、高原のほこりっぽいところではなく、緑に包まれるところになりました。

それから、砂漠の退治について、内モンゴルでそれが行われました。陝西省の砂も大変です。何人もそういう砂退治の英雄が生まれています。今400キロ、その砂地のほうに浸透しています。植林が行われています。陝西省も良い技術を持っています。陝西省はそういった方面での影響力を望みます。

あとは石炭を有効にクリーン化するか、主に石炭のケミカル製品への転換です。陝西省は榆林の石炭は灰分が少なく硫黄が含まれないよい化学工業製品です。日本から導入するエチレンなど産業チェーンをもっと延長ができないかと考えます。そうすることで環境がより良くなるでしょう。

それから、陝西省はまた風力の集中する、そして、太陽光の集中するところでもありますので、国が陝西省に新型都市化モデルということを指定していますので、グリーン、省エネ、エコ建築などのタスクがあります。そのためには日本との協力が不可欠です。

それから、西安の天気、大気汚染が時々トップ10だったりそうでなかったりしていますけれど、北京が大気汚染をするのに北京中央政府があるからお金があつて、退治できたときに西安が突出します。ですから、みずからにもプレッシャーを感じます。ですから地元の大気汚染10カ条、国よりも厳しいものになっています。漢中地方では1,000万トンの石炭を少なくする、ガス化するというのを進めています。今中央政府がヨーロッパ5基準を導入しています。それから、新エネルギーの協力、新エネルギー自動車サムソンの電池が進出し、エネルギー自動車の整備もあります。少しストーリーを語りますので時間を与えてください。マグネシウムとアルミの合金も強みになっています。もちろん一部地方に問題があるというお話がありますので、陝西省にいらつしゃい。知的保護が一番進んでいるし、技術を輸出しています。500億の技術を全国に輸出しています。それから、人材が安定しています。今多国籍企業の研究機関が一番陝西省に進出しています。毎年30万の大卒がいます。家賃も低い生活のコストが低いからです。山田先生を經由して交流を図りましょう。ありがとうございました。

#### ○山田啓二全国知事会会長(京都府知事)

ありがとうございます。

確かにトキは日本と中国の自然保護の象徴ではないかと思います。この協力関係がこれからどんどん広がっていくことを期待しているのですが、日本におきましても一番大きな水源を有する県として、この間、水質汚染と戦ってきたのが滋賀県でありまして、その滋賀県の三日月知事からその経験や日中の環境保護の交流、協力についてお話をお願いいたします。

#### ○三日月大造滋賀県知事

ありがとうございます。

今、山田知事、そして陝西省の省長がおっしゃったように、水質のみならず生態系の回復と保全、大切な視点だと思えます。その意味で滋賀県では今新しい豊かさを追求しようということを提唱しています。すなわち自分の豊かさだけではなく、今の豊かさだけではなく、ものの豊かさだけではなく、将来も全ての人が心の豊かさを感じられる、そういう行政や経済活動をやろうということを提唱しています。

その中で、私は3点この環境の問題でコメントを、提案をしたいと思えます。1点目は、先ほど河北省の省長もおっしゃいましたけれども、プランとルールとの必要性です。私たちはマザーレイク21計画というものをつくって、生活排水、工場排水の高度処理を進めています。これからはその下水の熱を使った環境の取り組みというものも展開をいたします。と同時に、これまでは農地をつくるために埋め立ててきた湖をもう一回復活させて、内湖の再生というものに取り組んでいます。もう一つ、これは広く県民の皆さん、琵琶湖に来ていただく方に適用するのですが、琵琶湖ルールというものをつくって、プレジャーボートの規制でありますとか、また、外来魚のリリース禁止ということに取り組み、また、ご協力をいただいています。プランとルールとの必要性です。

2つ目は、やはり教育と研究の重要性です。教育と研究が大切だということから、滋賀県では環境学習船を建造いたしまして、30年前からこれまで約48万人の子供たちに1泊2日で

船に乗って琵琶湖のこと、水のことの学習に取り組んでもらっています。最近では滋賀県の子供たちのみならず、京都の子供たちにも乗っていただいて、広くこの水の琵琶湖のことを学習してもらっています。ぜひ中国の子供たちにもこの琵琶湖で学習船に乗って水の研究学習に取り組んでもらいたいと思います。最近では湖だけではなくて、やまのこというプロジェクトをつくって、山の木のことを勉強する、そういう取り組みも進めています。

3つ目は、やはり産業の問題です。産業の問題といえば、私たちは農業で、環境こだわる農業ということを進め、農薬、化学肥料を半分以上に抑えた米づくりや野菜づくりに取り組んでいます。このことが多くの方々に喜ばれておりますし、もう一つ、先ほどのプレゼンテーションのときにも出しましたが、私たちの滋賀県には下水を上水にする技術、海水を真水にする技術を持つ世界に代表する企業がたくさん立地をしています。ぜひこの水をきれいにする技術を持つ企業をこれから滋賀県から世界に投資、また、販売、そういった分野で貢献をし、活躍してもらおう土壌を一緒につくっていきたいと思っています。明日、日中友好環境保全センター、これは中国環境保護区のもとにある日中友好環境保全センターを訪問をさせていただく予定にしています。これは1988年に当時の李鵬首相と竹下元総理との間でつくられた重要なセンターであると聞いておりますが、そこでも滋賀県の日吉という企業のモニタリング技術が活用され、今、大気の問題、水の問題のことで滋賀県もかわり合いを持たせていただいていますので、今後より広く深くかわっていかれたらと思います。

#### ○李小林中国人民対外友好協会会長

この議題がまだまだたくさん話足りないものがあるかと思います。ただ、時間の制約上、これよりセッションの第3議題に入りましょう。

今後どのようにして地方同士の観光交流を深めるかということです。先ほどこういうショートメッセージをいただきました。8月25日、日本の報道によりますと、日本政府観光庁の新しい統計データによりますと、1月から7月まで訪日した中国大陸からの観光客が129万人に達したというデータです。これがつまり2013年、前年のデータに相当する人数です。

つまり非常に素早く伸びてきました。しかし、一方では日本の友人が中国を訪問する数は、今それほど景気がいいとは言えません。もちろん諸々の原因が考えられますが、ですから、中国の省長にはこういった問題にさらされているかと思っています。どうすれば日本の観光客を引きつけることができるのか、中国に戻ってきて観光に来ていただけるのか、これについて天賦の国という誉れのある四川省からの鐘勉副省長よりお話頂戴したいです。

#### ○鐘勉四川省常務副省長

四川省に発言させてくださってありがとうございます。

先ほどのセッションで知事からそれぞれの県の観光をPRしていますので、四川省の観光についてもどうやって日本と交流を強化するかについて数点申し上げたいと思います。

四川省というのはお互いに観光デスティネーションとなる土台はできていると思います。眉山などの世界自然文化遺産、それからパンダなど、日本の観光客に大変魅力のある観光サイト商品になっています。

そして、四川省は西部大開発に伴って経済が、あと、人民の生活も向上しておりますので、観光促進というのはここ数年の大きな傾向になっています。特に成都と日本の間に1,000本

の直通便ができております。東京、名古屋、広島、相互に乗り入れております。毎日飛んでいきますので、有効に双方の訪問者、観光客の距離を縮めています。昨年受け入れた日本からの観光客は15万2,000人になっています。これは四川省に入った域外観光客の7.3%を占めます。国の中でもランキングは、アメリカに次いで2位になっています。しかし、李小林会長もおっしゃったように、近年やはり日本からの観光客は12万人にはなっていますが、四川省に訪れる観光客からすれば3番目に下がりました。

去年はアメリカに次いで2番目だったのですが、1月から9月にかけて今年は3番目、イギリスに次ぐ3番目になりました。四川省から日本に出かけるアウトバウンドに関しては、昨年四川省からの観光者は1.4万人になっており、観光促進の国として9位に並んでおります。しかし、今年の1月から9月にかけて日本への訪問客は4.3万人でした。1月から9月だけで4.3万人、昨年の年間を通して1.2万人でしたので大きく伸びています。国別では3位に上昇しています。お互いに観光のデスティネーションとなる土台ができています。そして、ここ2年の状況を見ると、四川省から出かける観光客は大幅に上昇したのに対し、日本からの観光客は安定成長ということでしょうか。

あとは、天賦の国の四川ですので、自然、生態、歴史、文化、そして日本の方々に親しまれる「三国志」などのストーリーなど、観光サイト、観光商品、四川料理などなど日本の方々の魅力は大きいと思います。ぜひ今後に向けて双方の観光協力を深めるために3点提案します。

一つは、観光旅行者などの協力を強化し、PR、観客誘致を図ること、そして互惠互利の協力土台ができています。そして、双方向の観光規模を拡大していきたいと思います。計画としては観光地、そして旅行者所管部門の日本訪問、多次元の協力推進を計画しています。日本の同じ担当者、関係者が四川省に来てほしいと思います。

それから、もう一つの提案は、より多くの直行便を開発すること。今、3本できていますが、大変有名になっています。それが双方向の観光を力強く推進していますので、さらにその便をふやしてダイヤを密にすること。

それから、3点目としては、両国政府が観光拡大互惠政策の実施方法をさらに強化すること、中国は日本国民に対してビザフリーの15日の優遇政策をとっていますので、日本は中国人観光客が沖縄、あるいは大地震の観光地観光についてそういう円滑化をしておりますが、3年マルチビザの支給の範囲をもう少し広げて双方の観光を促進できないかと思います。観光というのは近代産業だけでなく、また、内需の拡大につながるばかりでなく、国と国の観光というのは民間友好の使者にもなりますし、両国国民の認識理解を促しますので、特に昨今の行政の中、そういった観光を強化したほうが双方の草の根のレベルの往来を促進できます。四川省側はもっと効果的な方法をとって日本の観光客の利便性を図り、四川省の日本観光を支援します。以上です。

## ○山田啓二全国知事会会長(京都府知事)

ありがとうございました。

明日、四川省に伺えることを非常に楽しみにしております。実は今まで観光に関しましては、日本側は非常に赤字でありました。やはりアジア最大の観光地は何とんでも中国でありまして、日本は長い間、訪日観光客数が1,000万人を超えることもできない小国でありました。よう

やく昨年1,000万人を超え、2020年の東京オリンピック・パラリンピックのときには2,000万人を目指して、今整備を整えているところでありますが、両国の観光交流というのは相互互恵関係のやはり基盤なのではないかと思っております。京都で一番の歓楽街である祇園を最近歩いてみますと、いつの間にか私の周りが全て中国の方というときもありますが、観光交流に対して熱い期待を込めて、まず、長野県の阿部知事から発言をお願いします。

## ○阿部守一長野県知事

ご指名ありがとうございます。

私のほうから観光について少しお話ししたいと思います。私もこの8月に県知事選挙がありまして、公約の柱として掲げた一つがグローバル観光県づくりというものであります。大勢の皆様方を世界から長野県にお招きするためのさまざまな取り組み、環境づくりを積極的に進めていきたいと思っております。その中で、単に観光キャンペーンをするだけではなくて、やはり質的な整備も必要だと思っております。この前のテーマは、環境のテーマでありましたが、冒頭私からプレゼン申し上げましたが、長野県の価値は美しい長寿県でございます。そういう意味で実は私どもは環境をしっかり守ることが、実は観光の振興にもつながるという点と考えております。私のこれまでの取り組みとしても、水資源の管理条例を制定したり、あるいは地球温暖化防止条例を改定して、排出エネルギーの普及、そうしたものに組み込んでまいりました。さらには森林づくり県民税という税金で、県民から1人500円ずつをいただいて森林整備する。こうした面でも中国の皆さん方いろいろな課題、問題意識を共有できるんじゃないかなど。

私のほうから観光に関して3点ほどお話をしたいと思います。

その1点目が、先ほどのプレゼンでも申し上げましたが、教育旅行の充実であります。長野県、日本の中でも教育旅行、かねてから力を入れて取り組んできたところでございます。それをご説明したところに、今日お越しのところから全て受け入れさせていただいた実績があります。子供のときに子供たち同士、あるいは私ども農村体験という、農家の皆さんのところに民泊をしてみようというようなものを含めて体験をしてみようことで、日本の本当のすばらしさ、よさというものを体験してもらっております。ぜひ子供たち同士の交流、青少年同士の交流をこれからも進めることによって、未来に向けて中国と日本の関係を強化していきたいというふうに思っております。ぜひ皆様方にはこの教育旅行、積極的に取り組んでいただければ幸いというふうに思っております。

それから、2点目でございます。先ほど張慶偉河北省省長からお話がありました長野県はオリンピックを開催した県でありまして、スキー場、スキーの振興、スノーリゾート進出ということで、スキーをこれまで取り組まさせていただいております。近年、中国でもスキー場が増え、スキー人口が増えているというふうにお伺いしているところであります。今回、大勢のスキーヤーに長野県にお越しをいただきたいと思います。加えて長野県、スキー場の運営ノウハウといったものも蓄積をしておりますし、あるいはなかなか雪が降りにくいといいますか、降雪機のそうした技術、そういうものを持った企業が行ったりして、スキーというものを核にしてビジネス上の提携ということも可能だというふうに思っておりますので、ぜひこれからウィンタースポーツでの総合交流というものも考えていきたいと思っております。

それから、3点目には、私ども観光で目指す一つの姿が、世界水準の山岳高原観光地でございます。特に山の観光に力を入れております。去年は長野県の山、70万人の人たちが訪

れていただいておりますし、最近では海外からのお客様も非常に増えているという状況でございます。山岳観光というものはこれからもっともっと健康ブーム、アウトドアブームの中で増えているというふうに伺っております。ぜひ中国の皆様方にも山岳を安心安全の形で楽しんでいただけるようにと思っておりますし、また、実は私も今年、長野県独自に山の日というものを制定いたしましたし、日本国の国全体でも山の日を制定するという形になっております。山というものは、ある意味で平和のシンボルという1点、そういった山を通じての中国と日本との交流というものを今後考えていくことができるんじゃないかというふうに思っております。長野県、観光庁の統計によりますと、去年の旅行客数、海外からの旅行客数は一昨年に比べると約1.9倍と2倍近い伸びを示しているところであります。中国からのお客様もまだまだこれから大幅に伸びる可能性があると思っておりますし、中国からのお客様のニーズに最大限応えるような努力と工夫をしていきたいというふうに思っておりますので、皆様方からは逆にさまざまなニーズ、こうした観光地がいい、ということをお出しただければ、対応していきたいというふうに思っております。

### ○李小林中国人民对外友好協会会長

阿部知事、どうもありがとうございます。山田知事のほうからですね、もし日本の1年間の海外の観光客数が1,000万人ですが、そのうち、つまり5分の1が今年の年末、中国人の観光客が占めると。そうすると、日本の観光客に中国に戻ってきてほしいと思います。山東省も非常に観光資源の豊富な省です。

どうぞお願いします。

### ○夏耕山東省副省長

山東省は毎年日本から来る観光客は38万人ほどになっています。日本に出かける観光客は2万人足らずですから、アンバランスの現象でしょう。毎週38便が日本に飛んでいます。

そして、日本円が値下がりしていますが、100元単位1,700日本円ですので、もっと山東省の住民が日本に行ってもいいと思いますね。やはり両国の中央政府も、役人ももう少し頭を働かせるべき問題だと思います。今、日中間について円安だから中国の観光客にプラスになりますが、少し少ないと思います。ですから、幾つかやれることはあります。一つは個々の都市の政府が新たな友好都市の観光のPRをする義務を持つと思います。

もう一つは、共同で中日両国の入国ビザに関する円滑化、特に観光ビザの円滑化のために中央政府に対し働きかけていく、特に日本側にしていきたいと思います。

3点目は、相手のその送客減に対し観光商品、観光地、観光製品開発したらどうかと思います。今まで日本に行く中国人観光客多かったのですが、ある程度やはり日本ショッピングが目当てです。その要素が少なくなってきたと思います。どうやってより多くの文化的な交流にあって、あるいは健康、保健などの内容も盛り込んだ観光プロジェクトを持って中国人観光客を誘致したらと思います。翻って見ると、日本から来る38万人も満足できない、少ない少ないと思います。今までの5年間、省政府として5,000億投下しております。山東省全域で新規600のプロジェクトを開発しております。そして、旅行社が、もっと販促をしてほしいと思います。また、民意づくり、雰囲気づくりをもっと改善したいと思います。

先ほど平井知事から話がありました。青島に進出した企業が破壊されたというお話がありました。このことが2012年の9月15日に発生したこと、つまり東京都が買いたいというから、それ

がなかったら中国人が誰もそういう焼き討ちはしなかったと思います。もちろんその刑事犯罪を私たちとしては大変厳しく取り締まっております。そして、関係者を既に処罰しております。そして、企業も保険などで保障しております。ご承知のとおり、その企業は生産を回復しているということをご存じだと思います。努力を、最善を尽くしております。以上です。ありがとうございました。

### ○山田啓二全国知事会会長(京都府知事)

ありがとうございました。

本当に今両国の間で地方の交流という中ではいろいろな面があると思っております、山東省の皆様がご努力をされていることに対して、改めてお礼を申し上げたいと思っております。

そして、文化というお話がありました。確かに今、我々からしますと通貨のレートが厳しくなっております。私は足裏マッサージが好きなのでいつも行くのですが、実は昨日、足裏マッサージへ行って、値段が高くなってびっくりいたしました。その点から申しますと、本当に新しい交流の要素をつくっていかねばなりません。そして、文化というのはありとあらゆる面で共通の言語として、これからの観光振興に役立つのだと思います。例えばそれは、いわゆる昔からの遺跡などだけではなく、漫画などの今の時代のさまざまなコンテンツです。京都の場合では、「一休さん」というアニメが中国で有名かと思いますが、「一休さん」のお寺が京都にあるということは余り知られていません。そうした中で、文化の面でもすごく大きな魅力を持って、観光振興をされている鳥取県知事のほうから、またご提案をいただければ幸いです。

### ○平井伸治鳥取県知事

いろいろとご配慮いただいていることに感謝を申し上げたいと思います。

私が申し上げたかったのは、結局そういう観光交流が起こる、あるいは企業間の交流が起こる、そういう環境をつくらなければいけないということです。今、国と国との関係ばかりがクローズアップされています。しかし、地域経済、あるいは地方の人々、そういうジャンルで言えば、むしろ交流を促進させることを望んでいます。これが航空便の活性化にとか将来に向けた経済発展につながるわけでありまして、観光交流は非常にわかりやすい大切なアプローチではないかというふうに考えております。そういうビザの問題、これは両国の中央政府でこうした環境づくり、障壁を取り払うことに中央政府への働きかけなどを一致してやっていくべきだと思います。

また、観光プロモーション、これも全ての人たちが上海空港におりる、あるいは北京の空港におりるということではなくて、中国は広いです。日本も広いです。ディズニーランドだけが日本ではない。したがって、お互いそういう観光プロモーションをやり、人と人との交流を活性化させることで中国と日本との友好を促進する、そういう道を開くべきではないかと思います。今日のこの会議をスタートして、ぜひそうした面での意見交換や連携事業を深めていければありがたいのではないかなと思います。

なお、乾燥地を緑化する技術が大変進んでいるというお話がありましたが、あれは私どもの、先ほど申しました研究所ですね、中国科学院、水路、水、土の保持研究所とが連携協力して研究開発をしています。こういうように我々のところではいろんな協力関係をつくる、それで環境を変えたり観光の促進を図ったりということができないのではないかなと思います。ぜひこういう精神でお互いに交流を促進できたらと思います。

### ○李小林中国人民对外友好協会会長

時間の制約上、これ以上のディスカッションは控えさせていただきます。本日午後の時間を利用しまして、中国側、日本側が存分に交流できましたと思います。しかし、時間の制約がありますので、それほど思い切ってお話できなかった部分もあるかと思いますが、我々中国人民对外友好協会、中国日本友好協会と日本全国知事会との共同主催により開かれた今回の第2回フォーラムが非常に成功裏に開かれたと思います。

終わりになりますが、習近平主席が最近このようなことをおっしゃいました。中国と日本は一衣帯水の隣国であります。中日のこれまでの2000年にわたる交流の中には平和と友好が両国人民の心の主旋律な時期でありました。この平和と友好の関係を保つことが両国人民の基本的な利益に合致するものだということをおっしゃいました。ぜひとも我々の地方交流の場を通して、より多くの相互理解を一層深められていることを期待しています。歴史問題ももちろん正しく直視しなければいけません、

しかし、それよりも大事なのは、未来指向でなければいけません。なぜならば、お互いに隣国であるし、アジア太平洋地域の重要な国であります。戦えばともに傷つく関係にあるのです。ですから、ぜひともこの場を通して双方の理解を深めて友情を深めて、そして、協力を深めていくことを期待しております。これこそ両国のこの両国関係が困難な時期に陥った中でやらなければいけないことであるのです。

それでは、山田先生の総括のお言葉を頂戴したいと思います。

### ○山田啓二全国知事会会長（京都府知事）

李小林会長からすばらしい締め言葉の言葉をいただきまして、心からお礼申し上げたいと思います。

今回のフォーラムを通じて、私たちは深刻な環境問題をはじめ両国が今抱えている問題を、そして、地域経済の活性化のために本当にお互いができることを、さらに、観光の問題については、まさにその壁になっているものを取り除こうということをしっかり認識いたしました。私たちには共通の問題があり、共通の願いがあります。そして、そのためには共通の行動を起こしていかなければならないということはこのフォーラムで確認できたのではないかと考えております。これから私も、省長や知事だけでなく、事務的にも関係を詰めていき、しっかりとしたプラットフォームをつくり、その中においてお互いの問題を正直に話し合いながら、今、李小林会長がお話しされたように、未来指向で進んでいかなければならないことを痛感しているところであります。今回私ども全国知事会からはこれからの時代を担う若手の知事が多く参加いたしました。長い友好の歴史、交流の歴史にこのフォーラムから、そして地方から新しいページをしっかりと切り拓くことができることを期待いたしまして、私のお礼の言葉とさせていただきます。ありがとうございました。

### ○李小林中国人民对外友好協会会長

では、最後になりますが、ご出席の皆様のご参加に改めて感謝を申し上げます。ありがとうございました。

### ○王秀雲中日友好協会副会長

ご来賓の皆様、友人の皆様、本日の午後の中日双方の省長、知事の皆様がこのフォーラムの議題をめぐりまして大変友好的で実務的な活発な議論が行われました。それぞれの地方政府がどうやって交流を深めていくことに関して、幅広い共通認識に合意することができました。今後の交流に非常によい土台をつくり、このフォーラムが本当に成功裏に終わることができました。

以上をもちまして、今回のフォーラムが円満裏に開かれて開催されたことをここで宣言いたします。皆様のご参加に改めて御礼申し上げ、ありがとうございます。

### 3. レセプション

【日 時】平成26年10月28日(火) 18:00～

【場 所】釣魚台第5号楼

【参加者】(全国知事会)

山田啓二全国知事会会長(京都府知事)、泉田裕彦新潟県知事、  
平井伸治鳥取県知事、阿部守一長野県知事、三日月大造滋賀県知事、  
村岡嗣政山口県知事、中下善昭広島県副知事、橋本光男事務総長  
(中国人民对外友好協会・中国日本友好協会)

李小林中国人民对外友好協会会長、張慶偉河北省省長、李希遼寧省長  
鐘勉四川省常務副省長、曹小紅天津市副市長、夏耕山東省副省長、  
甘榮坤湖北省副省長

----

## V 地方視察(平成26年10月29日(水)～31日(金))

### 1. 魏宏四川省長との懇談

【日 時】平成26年10月29日(火) 17:30～

【場 所】錦江賓館

【参加者】(全国知事会)

山田啓二全国知事会会長(京都府知事)、村岡嗣政山口県知事  
中下善昭広島県副知事、橋本光男事務総長他  
(重慶総領事館)

鶴岡千晴主席領事  
(四川省政府)

魏宏四川省長、鐘勉常務副省長、薛康四川省人民政府副秘書長、  
朱志宏成都市副市長他

(中国日本友好協会)

王秀雲中国日本友好協会副会長、

張振興中国日本友好協会経済・都市交流部副部長他

### 2. 都江堰市視察

【日 時】平成26年10月30日(火) 9:00～

【場 所】四川省都江堰市

四川大地震における都市部での被災地である都江堰市の、上海市の協力のもと  
造られた新しい住宅市街地ならびに水利施設「都江堰」の復旧状況を視察した。

【参加者】(全国知事会)

山田啓二全国知事会会長(京都府知事)、村岡嗣政山口県知事  
中下善昭広島県副知事、橋本光男事務総長他

(中国日本友好協会)

王秀雲中国日本友好協会副会長、

張振興中国日本友好協会経済・都市交流部副部長他